

力ゼ太郎の「でる簿記」

日商簿記 3 級講座

テキスト

～試験に “でる簿記” 講座～

第1回 どうする？簿記3級

〈はじめに〉

「試験にでる簿記講座」のカゼ太郎です。

「カゼ太郎の『でる簿記』動画」の目的は、

ズバリ！日商簿記3級・2級を誰よりも効率的に勉強し、最短で確実に合格することです。

そのため、余計なことは話しません。余計な知識も教えません。

とにかく最短コースでの日商簿記3級・2級への合格を目指す方は、是非チャンネル登録をして最後まで一緒に頑張りましょう！

ビジネスマンの「三種の神器」は、よく「英語」「会計」「IT」と言われます。

あなたがもし、技術者やシステムエンジニア、デザイナー、看護師、介護士など、会計以外の職種であったとしても、会社や団体の経営会議にはきっと「流動比率が・・・」とか、「まだ資産の減価償却が終わってないから・・・」「経常利益がまた下がってしまう・・・」という会計の専門用語が出てきます。

ビジネスマンとして働く以上、そうした話題にもある程度理解してこそ、自らの技術力やデザイン力、看護・介護力が生かせるようになります。会計関係の言葉が出てきただけで「アウト」という人は、少なからず負い目があって、自分の力を企業の中で発揮しきれないでしょう。

そこで役に立つのが簿記3級レベルの基礎的な会計知識です。できれば2級まで合格できるとなお、そうした会話にも参加することができるようになります。少なくとも企業や団体で働く以上、「私、会計は全然わかりませんから…(涙)」という風にならないようにしたいのですね。

是非、一緒に勉強して簿記3級合格を目指しましょう！

〈簿記の目的〉

簿記の目的は、決算書を作ることです。

決算書は、難しい言葉では「財務諸表」ともいいます。その企業のことをお金の面から明らかにした書類です。「明らかにする」とは、その企業の「当期のもうけ（利益）はどれだけ」で、現時点で「どれだけ財産などを貯めてきたのか」ということを外部に公表することです。もう少し、専門的にいようと、「もうけ」とは「経営成績」と言い、「資力」とは「財政状態」と言います（この2つの用語は覚えてください）。

こうした決算書（経営成績と財政状態）は世の中のすべての企業が同じルールで作成することが求められています。そうしないと企業間で正確に比較することができないからです。そのルールを学習するのが「会計（＝簿記）」です。

ですから、すべての企業や団体は簿記のできる人を求めているのです。

◆覚え方

簿記の目的は、K・Aの（と） 罪状を明らかにすることだ
経営成績 財政状態

「K・A」は誰かのイニシャルです

〈財務諸表とは、〉

一年間の終わりである決算日（簿記の試験では多くは3月31日、ただし12月31の場合もあります）に作成する決算書のことです。財務諸表の中にはいろいろな種類がありますが、二大決算書と言われるものが損益計算書（P/Lともいいます）と貸借対照表（B/Sまたはバランスシートともいいます）です。そのほかにも株主資本等計算書やキャッシュフロー計算書などがありますが、3級試験で出題されるのは、損益計算書（P/L）と貸借対照表（B/S）の2つだけです。

◆覚え方

P/L 学園、儲けた。 B/S ベイスターズ、貯めた。
P/L 損益 B/S 貸借

P/L = Profit and Loss Statement (プロフィット・アンド・ロス・ステートメント) の略

B/S = Balance Sheet (バランスシート) の略で

貸借対照表

令和〇年3月31日現在

(単位：円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
(流動資産)		(流動負債)	
現金	○○○○	買掛金	○○○○
当座預金	○○○○	電子記録債務	○○○○
受取手形	○○○○	支払手形	○○○○
売掛金	○○○○	前借入金	○○○○
クレジット売掛金	○○○○	未払入金	○○○○
電子記録債権	○○○○	未払費用	○○○○
貸倒引当金	△○○○○	未前受益	○○○○
商品(繰越商品)	○○○○	預り未受取	○○○○
貸付金	○○○○	未前払預り	○○○○
立替金	○○○○	未払法人税等	○○○○
前払金	○○○○	負債合計	
未収入金	○○○○		
貯蔵品	○○○○		
前払費用	○○○○		
未収収益	○○○○		
(固定資産)		純資産の部	
建物	○○○○	科目	金額
車両	○○○○	資本金	○○○○
運搬具	○○○○	利益準備金	○○○○
備品	○○○○	繰越利益剰余金	○○○○
減価償却累計額	△○○○○	純資産合計	
土地	○○○○		
資産合計		負債・純資産合計	0

損益計算書

令和〇年4月1日から令和×年3月31日まで

(単位：円)

科目	全額	科目	全額
費用		収益	
売上原価(仕入)	○○○○	売上高	○○○○
給料	○○○○	受取手数料	○○○○
広告宣伝費	○○○○	受取利息	○○○○
支払手数料	○○○○	償却債権取立益	○○○○
支払利息	○○○○	固定資産売却益	○○○○
旅費交通費	○○○○	収益計	○○○○
貸倒引当金繰入	○○○○		
貸倒損失	○○○○		
減価償却費	○○○○		
通信費	○○○○		
消耗品費	○○○○		
水道光熱費	○○○○		
保険料	○○○○		
租税公課	○○○○		
修繕費	○○○○		
雑損失	○○○○		
固定資産売却損	○○○○		
法人税、住民税及び事業税	○○○○		
費用計	○○○○		
当期純利益	○○○○		

〈3級合格までの勉強の進め方〉

本番の試験で70点以上取る必要があり、「正確さ」と「スピード」が求められる試験です。

1 まず、「簿記」を繰り返し解いて、すべての問題をマスターしてください。

ここまでで、ほぼ合格レベルに達します。ただ、念には念を入れたい人は、

2 簿記3級問題集を（2~3周くらい）解いてみましょう（一冊の問題集を「これ」と決めましょう。いろんな問題集に手を出す必要はありません。）

繰り返しますが、1だけでも十分に合格できます。

日商簿記3級と2級は統一試験（いわゆる紙の試験）とネット試験があります。どちらを受けてもよいですし、どちらで合格しても価値は同じです。3級の場合はどちらの試験も合格率は約40%と変わりません。

合格のための秘訣は次の3つです。

1 「簿記は『慣れ』」です。決して難しい学問ではありません。ただし、勉強を始めたころは複式簿記という全く小中学校では（高校でも）習わなかった、慣れない「モノ」を扱うので誰でも戸惑います。そこで大切なことは、

2 「毎日コツコツやる」ということです。なじみのない仕訳のルールやいろいろな勘定科目は、一度覚えても大抵はすぐに忘れてしまいます。なので、大切なことは頭で覚えるというよりはむしろ、短時間でもよいので毎日学習して「体にしみこませる」ようにして覚えていくことです。是非、合格するまで『毎日コツコツ』を忘れないでください。そして、資格試験ですからそんなに簡単には合格できないかもしれません。受験生の半分以上的人は「不合格」です。（2級では8割近くの人が不合格）そこで、重要なことは、

3 「あせらない、あきらめない」ことです。着実に勉強を進めていけば、必ず実を結びますから決して焦らないこと。そして、一度や二度落ちても、たとえ三度、四度落ちてしまってもあきらめずに最後まで一緒に頑張りましょう！

※なお、電卓は「手のひらサイズ」のものを購入してください。12桁がおすすめです。

◆◆カゼ太郎の3か条◆◆

- 1 簿記は「慣れ」
- 2 毎日コツコツ
- 3 あせらない、あきらめない

第2回 簿記のながれ

〈簿記の目的〉(確認)

簿記の目的は、会社経営において、一年間の終わりである決算日において「財務諸表」という決算書を作成することです。そのために、日々の取引を「仕訳」というルールに基づいて帳簿に記入して、最後に集計をしていきます。

～ひとやすみ～〈簿記とは？〉

「簿記」という名称は、帳簿記入の略称といわれています。

「帳簿記入」とは、何にいくらのお金を使って、いくら儲けたかを記録していくことです。

簿記とは、決算書を「正しく」作るためのルールの勉強です。「正しく」とは全世界で同じルールで決算書を作ることで、同じ基準で作れば、経営成績などを比較することができるようになります。

〈簿記の流れ〉

1 日々の取引を記録します

※「取引」とは、「商品を仕入れた」「商品を売った」「備品を買った」「従業員に給料を支払った」「光熱水費を支払った」「銀行からお金を借りた」などの会社経営の活動のことです。

※この記録のことを「仕訳」といいます。

↓

2 仕訳した各勘定を「総勘定元帳」に転記します

※総勘定元帳とは、各勘定科目の金額を集計していく帳簿です。

↓

3 決算期になったら、試算表を作成し、各勘定科目の金額を一覧にします

※試算表とは、決算書（損益計算書と貸借対照表）の一歩手前の書類です。その時点までの仕訳や転記が正しいかを確認することができます。その時点での各勘定科目の合計金額が一覧になっています。

↓

4 決算整理仕訳を行います

※決算整理仕訳とは、決算時特有の仕訳のことで、固定資産の減価償却、売上原価の算定、経過勘定の仕訳など、いくつかの種類があります。簿記3級の試験では必ず第3問で出題されます。この作業はパターンが決まっているので、しっかり学習すれば得点源になります。

↓

5 精算表をもとに損益計算書と貸借対照表を作成します

※精算表とは、決算整理前の試算表から決算整理仕訳を行い、損益計算書と貸借対照表の各項目の金額を求める書類です。

第3回 仕訳の基礎1

決算書の中でも特に重要な2つの決算書は「貸借対照表」と「損益計算書」です（繰り返しますが、3級で習うのはこの2つだけです。）。

貸借対照表は決算日（企業では「3月31日」とすることが多い）時点での財政状態（資産、負債、純資産の金額）を表します。

損益計算書はその期（「4月1日から3月31日まで」の場合が多い）の経営成績（収益と費用及びその差額（利益））を表します。

簿記では日々の取引を「仕訳」（「仕分け」ではありません。）という方法で記録していきます。このとき、「複式簿記」という考え方で行います。ひとつの取引には必ず2つの面があります。仕訳とはその2つ面を表現する方法のことで、左に書く数字を「借方（かりかた）」、右に書く数字を「貸方（かしかた）」と言います（ここがわかりにくいところですが、頑張ってください。簿記は『慣れ』ですから）。

○仕訳の基本ルール

簿記の勉強は「仕訳に始まり、仕訳に終わる」と言われるほど、仕訳が重要です。

「複式簿記」の「複」は、どんな取引にも2つの面がある、という意味です。どんな取引でも、ひとつの取引を「両面」から記入していきます。

例1 商品を売り上げ500円の現金を得た。

手元の現金が増えた 500円／売り上げた 500円

現金 500 / 売上 500

例2 商品400円を掛け（売掛金）で売り上げた。

売掛金が発生した 400円／売り上げた 400円

売掛金 400 / 売上 400

例3 銀行から1000円を借り入れた。

現金を得た 1,000円／借入金ができる 1000円

現金 1,000 / 借入金 1,000

例4 商品を200円で仕入れ、現金で支払った。

仕入が発生した 200円／現金が減った 200円

仕入 200 / 現金 200

例5 備品800円を現金で購入した

備品が増えた 800円／現金が減った 800円

備品 800 / 現金 800

〈仕訳のルール〉

1 ホームポジション（左（借方）又は右（貸方））がある

資産と費用は「左側ホームポジション」なので、増えたら左（ホーム）、減ったら右（逆）に書く。

負債と純資産と収益は「右側ホームポジション」なので、増えたら右（ホーム）、減ったら左（逆）に書く。

2 左（借方）の金額と右（貸方）の金額は同じになる。

◆覚え方

増えたら『ホームポジション』、減ったら『逆』

第4回 仕訳の基礎2・完全マスター編

(復習)

☆すべての取引は両面ある。(借方(左側)、貸方(右側))

☆勘定科目は5グループに分かれ、5つのグループそれぞれのホームポジションがある。

『増えたらホームポジション、減ったら逆』

☆右側と左側の金額は同じになる。

※以下の問題は仕訳の「基本」です。

これらの問題を完全にマスターしてから次の講義に進んでください。(ここをマスターしないで先に進んででも理解は進みません)

(問題)

- 1 水道光熱費 300 円を現金で支払った。
- 2 備品 1,000 円を購入し、代金が普通預金から引き落とされた。
- 3 車両 5,000 円を購入し、代金を来月払いとした。
- 4 商品 500 円を現金で仕入れた。
- 5 商品 700 円を掛けで仕入れた。
- 6 商品 800 円を掛けで売り上げた。
- 7 銀行から 2,000 円を借り入れ、当座預金に入金された。
- 8 会社設立にあたり株式を発行し、10,000 円の投資を受けて当座預金に入金された。

(レベルアップ)

- 9 (1) 取引先に 50,000 円を貸付け、普通預金から振り込んだ。
(2) 3か月後、この貸付金 50,000 円が返済され、受取利息 100 円とともに普通預金に入金された。
- 10 (1) 銀行から 30,000 円を現金で借り入れた。

(2) 2か月後、上記の借入金 30,000円を返済し、支払利息 600円とともに現金で支払った。

11(1)商品 1,000円を仕入れ、200円を現金で払い、残額を掛けとした。

(2)翌週、この仕入にかかる買掛金 800円を現金で支払った。

12(1)商品を 3,000円で売り上げ、1,000円を現金で受け取り、残額を掛けとした。

(2)翌月、この売り上げにかかる売掛金 2,000円を現金で受け取った。

(解答)

- 1 水道光熱費 300／現金 300
- 2 備品 1,000／普通預金 1,000
- 3 車両 5,000／未払金 5,000
- 4 仕入 500／現金 500
- 5 仕入 700／買掛金 700
- 6 売掛金 800／売上 800
- 7 当座預金 2,000／借入金 2,000
- 8 当座預金 10,000／資本金 10,000
- 9 (1) 貸付金 50,000／普通預金 50,000
- 9 (2) 普通預金 50,100／貸付金 50,000
受取利息 100
- 10(1) 現金 30,000／借入金 30,000
- 10(2) 借入金 30,000／現金 30,600
支払利息 600
- 11(1) 仕入 1,000／現金 200
買掛金 800
- 11(2) 買掛金 800／現金 800
- 12(1) 現金 1,000／売上 3,000
売掛金 2,000
- 12(2) 現金 2,000／売掛金 2,000

○ 5つのグループについて

簿記の勘定科目（現金、借入金、資本金、売上、仕入などのこと）は全て「資産」「負債」「純資産」「費用」「収益」の5つのグループのどれかに分類されます。

・「資産」と「費用」は左側ホームポジション

資産とは、現金のほか、建物、貸付金など現金化できるもので、持っているうれしいもののイメージです。

費用とは、仕入原価、光熱水費、旅費交通費、給料など、会社が儲けるために支払うもの

・「負債」と「純資産」と「収益」は右側ホームポジション

負債とは、借金や借入金のこと。将来、現金を支払うもの。「負債＝よくないもの」というイメージは間違えです。会社経営のためには適切な借金（借入金）は必要なものです。

純資産とは、会社を経営するために投資家から投資してもらったお金や、会社経営においてこれまでに貯めた儲けなどです。

収益とは、売上、受取利息など、会社がゲットしたお金（もうけ）のことです。

※財務諸表（決算書）の見方【重要】

財務諸表（決算書）を理解するコツは右側から見ていくことです。

右側には「会社経営のためにどうやってお金を得てくるか」が記載されています。お金を得るには主に3つの方法があります。「負債」は銀行から借りてきたお金、「純資産」は投資家から投資してもらったお金、「収益」は自ら稼いで得たお金を表しています。

左側には集めてきたお金を「どうしたか（貯めたか、使ったか）」が記載されています。「資産」は現金のまま貯めたり、土地や建物に変えたりして蓄えたものです。「費用」は経営のために使った（払った）お金を表しています。

◆覚え方（その1）

（表を指しながら）「資産は、負債+純資産。費用に収益」

◆覚え方（その2）

（右上から）

「社長夫妻、職場巡回で、もうけを
　　〈負債〉　　〈純資産〉　　〈収益〉

（左へ）

試算。 ひよ～～と驚いた。

　　〈資産〉　　〈費用〉

～ひとやすみ～

★簿記の勉強は常に「会社の経営者になった」つもりで考えましょう。

商品を仕入れたら「費用がいくらかかったかな」と考え、その商品が売れたら「よかったです」と思い、持っている資産の価値が下がったら「しまった」と思い…、という感じです。

★金額を描くときには、3桁ごとに「カンマ（、）」を打ちます。

千円は「1,000」、百万円は「1,000,000」と書きます。この2つは覚えましょう。

第5回 現金、預金

簿記において、硬貨や紙幣はもちろん「現金」として扱いますが、それ以外にも次のものは「現金」として扱います。

紙幣・硬貨

(他人振出) 小切手

送金小切手

郵便為替証書、普通為替証書

株式配当金領収書

期限到来の公社債の利札

※注意「現金」として扱わないもの

自己振出小切手—自社が振り出した小切手のことです。自社が振り出した小切手が、世間を巡り巡って(もしも)自社に戻ってきたら(受け取ったら)、「当座預金」の増加とします。
(振り出したときに「当座預金」を減らしたから、それを戻すのです)

○当座預金とは、

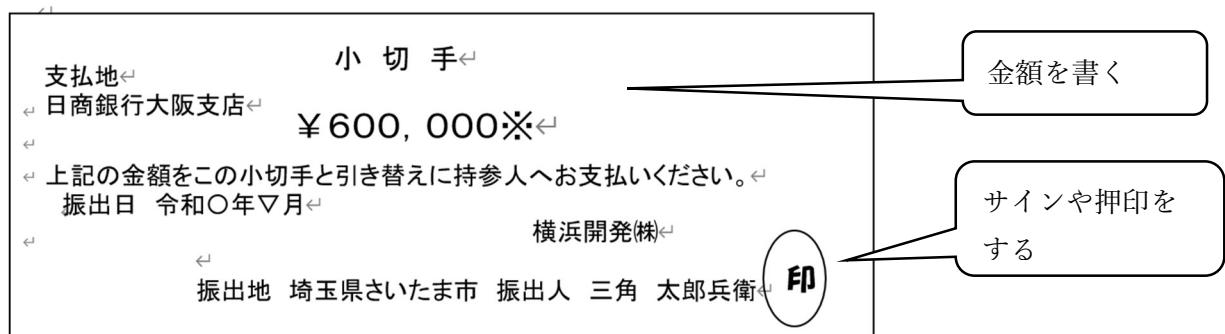
事業者向けの口座で、小切手での決済ができます。ただし利息(利子)は付きません。当座借越(預金残高以上の支払いをすること)の契約をすることが可能です。

○普通預金とは、

個人や事業者が日常的なお金の出し入れに使う口座です。利息(利子)が付きますが、預金残高以上は引き出すことができません(当たり前ですね)。

※「小切手を振り出す」とは、

「小切手」という書類に金額を書いてサインや押印をして渡すことです。小切手を振り出すと、お金を渡したことと同じになります。小切手を受け取った人は、それを銀行へもっていくと、お金に換えてもらうことができるのです。



(問題)

- 1 現金¥50,000 を普通預金口座に預け入れた。
- 2 AB 商事(株)から売掛金¥150,000 の支払いとして、AB 商事(株)振り出しの小切手を受け取った。
- 3 さきに千葉(株)より受け取った小切手¥200,000 と、前期中に受け取った普通為替証書 ¥5,000 を、ともに当座預金口座に預け入れた。
- 4 買掛金 ¥79,000 の支払いのために小切手を振り出した。
- 5 ①現金¥10,000 円を小口現金係へ渡した。
②小口現金¥10,000 について、小口現金係から次のとおり使用したことが報告された。
 ・文房具 ¥3,000 (使用済み) ・電車賃 ¥4,500

- 6 当座預金口座を開設し、普通預金口座から¥100,000 を預け入れた。
また、口座開設と同時に当座借越契約を締結し、その担保として普通預金口座から¥2,000,000 を定期預金口座へ預け入れた。

(解答)

- 1 普通預金 50,000／現金 50,000
- 2 現金 150,000／売掛金 150,000
- 3 当座預金 205,000／現金 205,000
- 4 買掛金 79,000／当座預金 79,000
- 5 ① 小口現金 10,000／現金 10,000
② 消耗品費 3,000／小口現金 7,500
 旅費交通費 4,500
- 6 当座預金 100,000／普通預金 2,100,000
定期預金 2,000,000

小切手は受け取った時と渡した（振り出した）と時とで扱いが異なります【重要】。

◆覚え方

小切手は、受けた 現金 たら 元気 に、渡し 当座預金 は 外様
(受けた) (現金) (渡し) (当座預金)

(注意) ~ひとやすみ~

自ら小切手を振り出した場合（小切手に自分で金額を記入し、サイン（押印）した場合）は上記の通り「当座預金の減少」ですが、他人の振り出した小切手（他人から受け取ったもので、もともと現金扱いしていたもの）を渡した場合は「現金の減少」となります（こういうケースはめったに出題されません）。

第6回 仕入

自社の商売のための商品を購入した場合、「仕入」勘定（費用）を用います（この方法を「三分法」と言います）。

商品を仕入れたので、「商品（資産）××円／現金××円」として「商品」勘定を用いる仕訳の方法（「分記法」と言います）もありますが、3級では扱いません。（ちなみに備品や土地を購入した場合は「分記法」で仕訳します）

また、商品を仕入れた場合にツケ（後日払うこと）にした場合、「買掛金」勘定を用います。「未払金」勘定は商品以外を購入してツケにした場合に用います。

なお、仕訳では「仕入」ですが、財務諸表（損益計算書）では、前期繰越商品を加え、次期繰越商品を除外したうえで、「売上原価」と表示されます。

◆覚え方

商品は「掛け」で売り買い、その他は「み・み」で
売掛、買掛 備品、車両など 未払、未収

- 1 A商品50個を@¥60（計¥3,000）で仕入れ、代金は掛けとした。
- 2 商品¥200,000を仕入れ、小切手を振出した。
- 3 先月函館商事（株）から掛で仕入れた商品¥1,000について品違いのため返品し、掛け金から差し引くこととした。
- 4 北海道物産（株）より商品¥450,000を仕入れ、掛けとした。なお、引取運賃¥1,000は現金で支払った。
- 5 徳島漁業（株）は香川物産から商品¥20,000を仕入れ、代金は掛けとして。なお引き取り運賃（先方負担）¥1,000を現金で支払った。
- 6 配達に使う車両¥100,000を購入して、来月支払うこととした。
- 7 販売用の車両¥100,000を購入して、来月支払うこととした。当社は中古車販売業を営んでいる。

(解答)

- 1 仕入 3,000／買掛金 3,000
(3級では「商品 3,000／買掛金 3,000」とは仕訳しません)
- 2 仕入 200,000／当座預金 200,000
- 3 買掛金 1,000／仕入 1,000
返品（売上げ戻し、仕入戻し）は直前の売上、仕入の仕訳を取り消す仕訳（逆仕訳）を行います。

◆覚え方

返品は、「売り」も「仕入れ」も逆仕訳

- 4 仕入 451,000／買掛金 450,000
現金 1,000
引き取り運賃は「付隨費用」として仕入に加えます（「仕入諸掛り」ともいいます）（重要）。
- 5 仕入 20,000／買掛金 20,000
立替金 1,000 現金 1,000
「立替金」は後から回収する見込みなので、資産の勘定科目です。問題分で「立替分は買掛金と相殺する」と指示があれば、
仕入 20,000／買掛金 19,000
現金 1,000 と仕訳します。
- 6 車両運搬具 100,000／未払金 100,000
- 7 仕入 100,000／買掛金 100,000
通常、商売に直接関係のあるモノは「商品」といい、「売上」「仕入」「売掛金」「買掛金」で仕訳しますが、本問のように「販売用の」とか、「○○業を営んでいる」という表現で出題されることもあり、その場合も商品として仕訳します。

第7回 売上

商品を販売した場合「売上」勘定（収益）を用いて仕訳します。財務諸表（損益計算書）では、「売上高」と表示されます。

（問題）

- 1 ①商品¥90,000 を掛で売上げた。
②先日掛売上した商品¥10,000 について、品違いによる返品（売上げ戻り）があった。
- 2 埼玉（株）に商品¥200,000 を掛けで販売し、送料¥2,000 を現金で支払った（送料は当社負担）。
- 3 得意先に商品 ¥26,000 を売り渡し、代金のうち¥20,000 は得意先振出の小切手で受け取り、残額は現金で受け取った。
- 4 クレジット払いの条件で商品¥40,000 を販売した。なお、信販会社へのクレジット手数料¥800 は商品販売時に計上する（クレジット売掛金で処理）
- 5 得意先に対する売掛金 ¥150,000 について、取引銀行を通じて電子債権記録機関から電子記録債権の発生記録の通知を受けた。
- 6 岐阜商事に商品¥1,500 を売上げ、自治体発行の商品券¥1,000 と現金¥500 を受け取った。

（解答）

- 1 ① 売掛金 90,000／売上 90,000
② 売上 10,000／売掛金 10,000

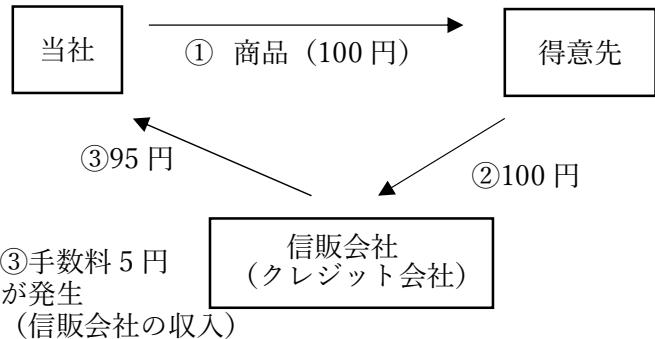
◆覚え方

返品は、「売り」も「仕入れ」も逆仕訳

- 2 売掛金 200,000／売上 200,000
発送費 2,000 現金 2,000
- 3 現金 26,000／売上 26,000

4 クレジット売掛金 39,200／売上 40,000
支払手数料 800

※クレジット払いの仕組み



◆覚え方

クレジット、手数料が引かれます
クレジット売掛金 支払手数料

5 電子記録債権 150,000／売掛金 150,000

・電子記録債権、電子記録債務とは、

紙の小切手ではなく、公の機関（電子記録債権記録機関）が売掛金や買掛金を記録・管理してくれる方法です。紙の小切手を紛失するリスクがなくなるほか、収入印紙代を節約できたり、支払い・受取り事務が簡便化されたりするメリットがあります。

6 受取商品券 1,000／売上¥1,500

現金 500

「受取商品券」は資産の勘定科目です。お金と同じようなものだからです。

第8回 諸費用

・費用とは、

会社が活動するために必要な支出のことです。例えば、仕入、光熱水費、給料などがあります。費用は単に支払ったお金ということではなく、「収益（売上げなど）を獲得するため支払われるもの」と考えます（重要）。減価償却費も費用の一種で、例えば、車両がその年に一万円価値を減らしたら、その分減価償却費を計上しますが、この費用（減価償却費）は売上獲得に貢献したために発生した費用である、と考えます（車両が「活躍」してくれた分、一万円分の『賃金を支払った』というようなイメージです）。

（問題）

- 1 切手とはがき計¥3,500 を現金で購入した。
- 2 決算となり、未使用分のはがきと切手が¥5,000 あることが判明したため、適切な勘定へ振り替える。
- 3 水道光熱費¥73,000 と保険料¥9,000 が当座預金口座から引き落とされた。
- 4 店舗を賃借し、敷金（保証金） ¥300,000 および手数料 ¥150,000 を普通預金口座から振り込んだ。
- 5 ①営業活動で利用する電車およびバスの料金支払用 IC カードに現金¥30,000 を入金した。
②営業において電車代¥1,000 を上記 IC カードから支払った。
- 6 営業活動で利用する電車およびバスの料金支払用 IC カードに現金¥30,000 を入金した。
なお、入金時に全額費用に計上する方法を用いている。
- 7 ① 当月分の従業員の給料¥120,000 について、所得税の源泉徴収額¥6,000 を控除した残額を、当座預金口座から支払った。
②先月の給料にかかる所得税の源泉徴収額 ¥6,000 を現金で納付した。

（解答）

- 1 通信費 3,500／現金 3,500
 - 2 貯蔵品 5,000／通信費 5,000
- 切手、はがきは購入時に「通信費」で仕訳していますが、期末時点（＝決算時点）で未使

用のもの（余ったもの）は「貯蔵品（資産）」に振り替えます。収入印紙も同じです（ただし、収入印紙は購入時に「租税公課」で仕訳します。）

◆覚え方

未使用の切手、はがきは「貯蔵品」。収入印紙も「貯蔵品」

3 水道光熱費 73,000／当座預金 82,000

保険料 9,000

4 差入保証金 300,000／普通預金 450,000

支払手数料 150,000

5 ① 仮払金 30,000／現金 30,000

② 旅費交通費 1,000／仮払金 1,000

ICカードに入金した場合は、とりあえず払ったお金と考えて「仮払金（資産）」で処理します。

◆覚え方

とりあえず、 I see と、 仮歯で言う
とりあえず払った時 ICカード 仮払金

6 旅費交通費 30,000／現金 30,000

「入金時に全額費用に計上」とあるので、「仮払金（資産）」では処理しません。

7 ① 給料 120,000／当座預金 114,000

所得税預り金 6,000

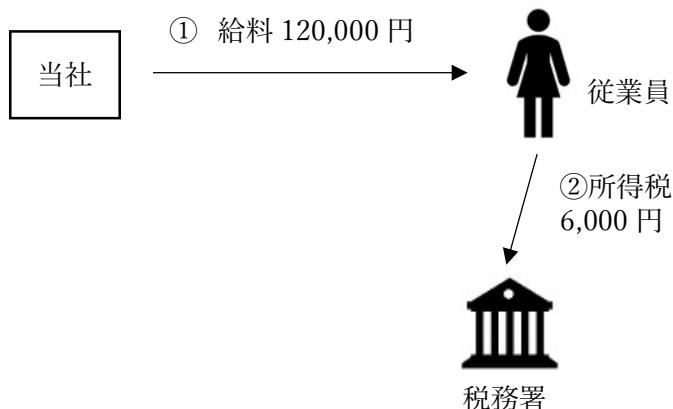
② 所得税預り金 6,000／現金 6,000

「所得税預り金」は単に「預り金」とする場合もあります。社会保険庁に支払う「社会保険料預り金」を源泉徴収する場合もあります。

※源泉徴収のしくみ

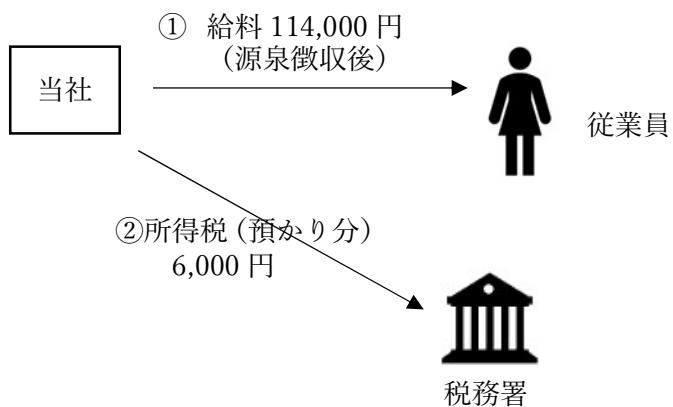
【源泉徴収しない場合】

従業員が直接税務署に納税します。



【源泉徴収する場合 (試験に出るのはこちら)】

従業員は支払うべき税金を会社が代わりに払います。



◆覚え方

源泉 (=温泉) の権利は、私 が預かりります。

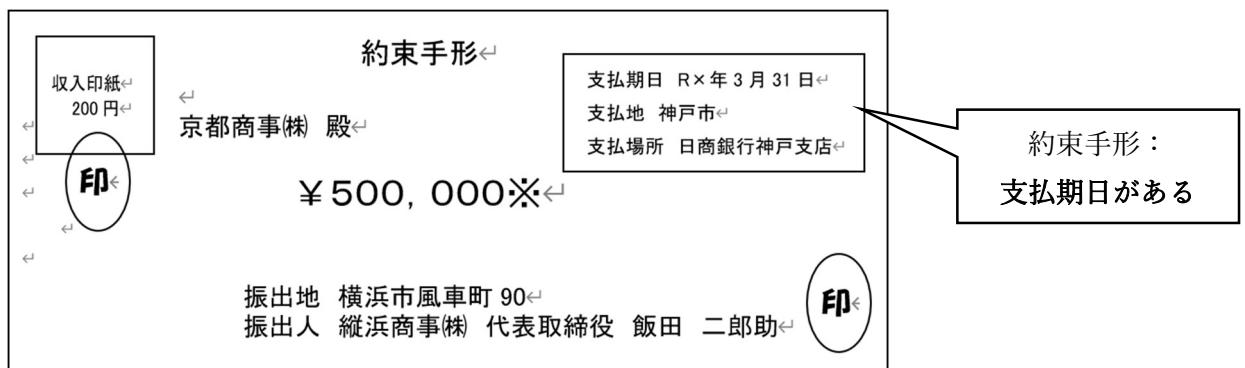
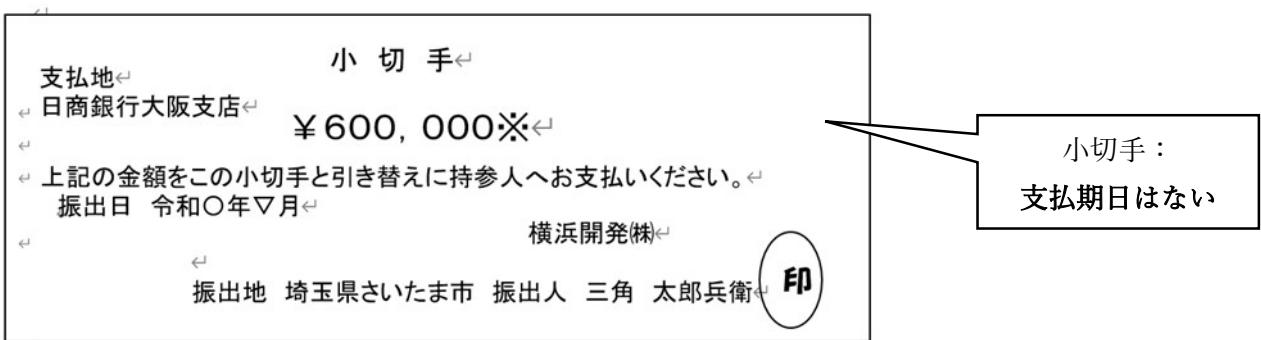
源泉徴収 (社長) 預り金

第9回 約束手形

約束手形とは、

期限（例えば「90日後」など）を決めて支払いを約束する証書のことです。約束手形を受け取ったら、期日以降に現金を得ることができます。小切手は即日に現金化できますが、約束手形は支払期日以降にならないと現金化できません。

約束手形を渡した（振り出した）場合は、期限までに現金を支払わなければ（当座預金に入金しておかなければ）なりません。（ちなみに約束手形は2027年度の試験から出題範囲から外れます。）



(問題)

- 約束手形の受入れによる売上げ￥180,000 があった。
- 銀行に取立てを依頼していた約束手形￥39,000 が決済され、当座預金口座への入金を受けた。また、銀行に対する取立て手数料￥1,000 が当座預金口座から引き落とされた。
- 埼玉（株）の売掛金￥120,000 については同店振出しの約束手形で回収した。

- 4 かねて (=以前から) 振り出していた約束手形 ¥30,000 の支払期日をむかえ、同額が当座預金口座から引き落とされた。
- 5 買掛金の支払いとして¥21,000 の約束手形を振り出し、仕入先に対して郵送した。なお、郵便代金 ¥500 は現金で支払った。

(解答)

- 1 受取手形 180,000／売上 180,000
- 2 当座預金 39,000／受取手形 39,000
支払手数料 1,000 当座預金 1,000
- 3 受取手形 120,000／売掛金 120,000
- 4 支払手形 30,000／当座預金 30,000
- 5 買掛金 21,000／支払手形 21,000
通信費 500 現金 500

第10回 固定資産・減価償却

・付随費用とは、

備品や土地などを購入した際の運送費、設置費用などは付随費用と言い、備品などの取得原価に含めます（付随費用には、運送保険料、関税、試運転費、購入手数料などがあります）。（商品についても同じ考え方で、仕入の価格に含めます。）

◆覚え方

固定資産、使えるようになるまでは、取得原価
運送費、保険料、試運転費、購入手数料など

・減価償却とは、

固定資産（車両、備品など）は、毎年少しづつ価値が減少する（減価）一方、一定額の費用が計上されます。この費用のことを減価償却費と言います。

そもそも「費用」とは、売上げに貢献するために支払われるものです。備品や車両は毎年一定額が売上げに貢献するので、その分の費用を計上します。備品や車両が売上のため働いてくれたので賃金を支払うイメージです。

なお、「償却」とは「費用化」という意味です。

（問題）指示がない場合は間接法で仕訳すること。

- 1 備品¥350,000 を購入し、設置費用¥4,000 を含めた代金を来月末に支払うこととした。
- 2 備品（取得原価¥2,000,000）について、残存価額をゼロ、耐用年数を8年とする定額法により減価償却を行う。間接法で記帳する。
- 3 建物（取得原価¥800,000）について次のとおり定額法で減価償却を行う。
建物：残存価額は取得原価の10%、耐用年数24年
- 4 営業用の土地550m²を1m²あたり¥35,000で購入した。この土地の購入手数料¥400,000および整地手数料¥50,000は現金で支払い、土地の代金は後日支払うこととした。

(解答)

- 1 備品 354,000／未払金 354,000
- 2 減価償却費 250,000／建物減価償却累計額 250,000
- 3 減価償却費 30,000／建物減価償却累計額 30,000
- 4 土地 19,700,000／現金 450,000
未払金 19,250,000

第11回 固定資産 資本的支出・収益的支出

固定資産（特に建物）の改修や修繕を行った場合、固定資産（建物）の価値を増価させたり使用可能期間を延長させたりする場合は固定資産（建物）の増額（資産計上）をします（資本的支出といいます）。一方、価値を増価させずに原状回復する場合は修繕費を計上（費用計上）します（収益的支出といいます）。

- ・資本的支出の例：建物に新たに非常階段を設置した。建物の屋上に新たにベランダを設置した。
- ・収益的支出：建物の壁に空いた穴をふさいだ。建物のドアが壊れたので、取り換えた。

◆覚え方

建物は、価値が上がれば「建物」で、なおしただけなら「修繕費」
非常階段、ベランダ設置など 雨漏り、ドア修理など

（問題）

- 1 建物の改築と修繕を行い、代金¥20,000,000を普通預金口座から支払った。うち建物の資産価値を高める支出額は¥16,000,000であり、建物の現状を維持するための支出額は¥4,000,000である。
- 2 自社の建物（取得原価1,000,000円、耐用年数50年）について、当期の10月1日に100,000円の増築工事が完了し使用を始めた。増築部分については資本的支出にあたり、耐用年数を20年とする。決算日（3月末日）における減価償却の仕訳を行う。

（解答）

- 1 建物 16,000,000／普通預金 20,000,000
修繕費 4,000,000
- 2 減価償却費 22,500／建物減価償却累計額 22,500
元の建物 1,000,000 ÷ 50年 = 20,000
増築部分 100,000 ÷ 20年 × 6月 / 12月 = 2,500

第12回 固定資産の売却

例えば70,000円で購入したパソコン（備品）を3年後に30,000円で売却するケースを考えてみます。この時単に7万円-3万円=4万円で、「4万円を損した」とはなりません。なぜなら、パソコンは3年間で減価償却が進み、価値が減っているからです。

この単元は3級で最も難しいと言ってもいいところです。頑張って理解しましょう。

（問題）

- 1 青森株式会社は¥40,000で取得した備品を¥25,000で期首に売却し、代金を現金で受け取った。この備品は売却時点で減価償却累計額が¥16,000であり、間接法で記帳している。
- 2 岩手産業(株)は、X4年4月1日に、¥700,000で取得した車両をX8年3月31日に¥400,000で売却し、代金は来月に受け取ることにした。車両の残存価額はゼロ、耐用年数は10年間、間接法で記帳している。今年度の減価償却は記帳済みであり、会計年度は3月31日までである。
- 3 (難) 秋田商会(株)はX6年1月31日に、X2年4月1日に購入した車両（取得原価¥900,000、残存価額は0円、耐用年数は10年、間接法で記帳）を¥500,000で売却し、代金は翌月末に受け取ることにした。会計期間は3月31日までである。
- 4 (難) X1年4月1日に購入した備品（取得原価¥6,000、残存価額ゼロ、耐用年数5年、間接法で記帳）をX3年6月30日に¥2,500で売却し、代金は後日受け取ることとした。減価償却費は月割りで計算している。

- 1 減価償却累計額 16,000／備品 40,000
現金 25,000 固定資産売却益 1,000
- 2 減価償却累計額 280,000／車両 700,000
未収金 400,000
固定資産売却損 20,000
- 3 減価償却累計額 270,000／車両運搬具 900,000
減価償却費 75,000
未収金 500,000
固定資産売却損 55,000

期中に売る場合は注意が必要です。当期首から売却までの数か月間にも固定資産は償却が進んでいるので、その分を「減価償却費」として計上します。(その分だけさらに価値が減っているということです。)

◆覚え方

固定資産、期中に売るなら、償却せよ
減価償却

4 減価償却累計額 2,400／備品 6,000

減価償却費 300

未収入金 2,500

備品売却損 800

※3と4の問題は簿記3級の問題の中でも最も難しい問題のひとつです。理解できない場合は後回しにしても大丈夫です。

第13回 貸倒引当金

・引当金とは

将来発生する可能性の高い費用や損失を、あらかじめ当期分の費用や損失として見積もっておくものです。（「将来発生する」というところがポイントです）

・貸倒引当金とは、

取引先の倒産などにより、売上債権（売掛金、電子記録債権など）が回収不能になることに備えて、あらかじめ損失を見込んで計上する引当金のことです。

（問題）

- 1 ①徳島商事(株)に対する売掛金¥200,000 (前期販売分) について、本日、¥70,000 を現金で回収し、残額については貸倒れとして処理した。なお、貸倒引当金の残高は¥300,000 である。
②徳島商事(株)に対する売掛金¥200,000 (前期販売分) について、本日、¥70,000 を現金で回収し、残額については貸倒れとして処理した。なお、貸倒引当金の残高は¥100,000 である。
③徳島商事(株)に対する売掛金¥200,000 (当期販売分) について、本日、¥70,000 を現金で回収し、残額については貸倒れとして処理した。なお、貸倒引当金の残高は¥300,000 である。
- 2 電子記録債権および売掛金の期末残高（それぞれ¥420,000、¥300,000）合計に対して2%の貸倒引当金を差額補充法により設定する。（期末時点の貸倒引当金残高は¥10,000）
- 3 得意先が倒産し、売掛金¥800,000 のうち¥200,000 は、かねて注文を受けたさいに受け取っていた手付金と相殺し、残額は貸倒れとして処理した。貸倒引当金は設定していない。
- 4 昨年度に得意先が倒産し、その際に売掛金¥1,000,000 の貸倒れ処理を行っていたが、本日、得意先の清算に伴い¥50,000 の分配を受け、同額が普通預金口座に振り込まれた。

(解答)

- 1 ①現金 70,000 ／売掛金 200,000
 貸倒引当金 130,000
- ②現金 70,000 ／売掛金 200,000
 貸倒引当金 100,000
 貸倒損失 30,000
- ③現金 70,000 ／売掛金 200,000
 貸倒損失 130,000

貸倒引当金を取り崩せるのは前期以前に発生した売上債権（売掛金など）に対してのみです。当期に発生した売上債権に対してはまだ貸倒引当金は設定されていないため貸倒引当金が積み立ててあったとしても使えません。

◆覚え方

貸引当は、当期のものには使えません
 貸倒引当金 売上債権

- 2 貸倒引当金繰入 4,400／貸倒引当金 4,400
- 3 前受金 200,000 ／売掛金 800,000
 貸倒損失 600,000
- 4 普通預金 50,000／償却債権取立益 50,000

第14回 仮払金と仮受金

・仮払金とは、

支払時に金額や内容が確定していない場合に、とりあえずお金を払った時に使う勘定科目です。例えば、従業員が出張先で使う旅費などのためにとりあえず支払っておく場合があります。また、ICカード（Suica、PASMO、ICOCAなど）にチャージ（入金）した場合も入金時点ではまだ旅費や消耗品などとして消費していないので「とりあえず」のものとして仮払金として処理します。仮払金は最終的（精算時や決算時など）に逆仕訳をしてなくなります。

・仮受金とは、

内容が不明であるがとりあえずお金を受け取ったり、銀行口座に入金されたりした場合に使う勘定科目です。仮受金も最終的（精算時や決算時など）には逆仕訳によりなくなる勘定科目です。

～ひとやすみ～

仮払金は、後からお金を返してもらえる性質があるので「資産」に分類されますが、現金の支出を伴うので、「費用」としての性質も持っているといえます。同じく、仮受金は後でお金を返さなければならない性質があるので「負債」に分類されますが、「収益」としての性質も持っているといえます。このように考えると「資産」と「費用」は同じ仲間で、「負債」と「収益」も同じ仲間であることがわかります。

（問題）

- 1 ① ICカードへのチャージ（入金）おこなった際は仮払金勘定で処理し、使用時に適切な勘定に振り替えている。本日、ICカードへ現金¥32,000をチャージした。
② (ICカードにチャージした) 翌週、電車での移動による使用¥18,000、消耗品の購入による使用¥10,000があった。
- 2 営業活動で使用する交通費支払い用のICカードに現金¥10,000を入金した。入金時に全額費用計上する方法による。
- 3 ① 従業員Fの出張にあたり、旅費の概算額¥30,000を現金で渡した。
②出張した従業員Fが帰社し、旅費を精算して残額の¥2,000を現金で受け取った。

4 (決算整理前残高試算表の) 仮払金¥120,000 は、その全額が 12 月 1 日に購入した備品に対する支払いであることが判明した

5 ① 当座預金口座を調べたところ、内容が不明の入金¥100,000 があったので、仮受金で処理をする。

② (内容不明だった) 仮受金¥100,000 は売掛金を回収したものであることが判明した。

(解答)

1 ① 仮払金 32,000／現金 32,000

② 旅費交通費 18,000／仮払金 28,000

消耗品費 10,000

◆覚え方

とりあえず、 I see と、 仮歯で言う
とりあえず払った時 ICカード 仮払

2 旅費交通費 10,000／現金 10,000

「全額費用計上」とあるので、「旅費交通費」で処理します。

3 ① 仮払金 30,000／現金 30,000

② 旅費交通費 28,000／仮払金 30,000

現金 2,000

4 備品 120,000／仮払金 120,000

5 ① 当座預金 100,000／仮受金 100,000

② 仮受金 100,000／売掛金 100,000

第15回 前払金と前受金

・前払金とは、

備品などを購入した場合、受け取る前に代金を支払ったときに使う勘定科目です。「手付金」(または「内金(うちきん)」)とも言います。

・前受金とは、

備品等を販売した場合に、渡す前に代金を受け取った時に使う勘定科目です。「手付金」(内金)とも言います。

～ひとやすみ～

前払金は後でお金が返ってくるかもしれない「資産」ですが、支払いを伴うので「費用」としての性質ももっていると言えます。前受金は後でお金を返さなければならないかもしない「負債」ですが、「収益」としての性質も持っていると言えます。

(問題)

- 1 商品発注に伴い手付金(内金) ¥80,000を現金で支払った。
- 2 新宿商事(株)より商品¥130,000を仕入れ、代金のうち ¥30,000は発注時に支払った手付金と相殺し、残額は掛けとした。
- 3 ① 商品¥150,000の注文を受け、手付金として現金¥30,000を受け取った。
② 上記商品¥150,000を売り上げ、残額を現金で回収した。

(解答)

- 1 前払金 80,000／現金 80,000
- 2 仕入 130,000／前払金 30,000
買掛金 100,000
- 3 ① 現金 30,000／前受金 30,000
② 前受金 30,000／売上 150,000
現金 120,000

問題文に「手付金」とあったら、「前受金」「前払金」を連想しましょう。

◆覚え方

前受 の人に、『手を付け』る！
(前受、前払)

(手付金)

第16回 借入金、貸付金

・借入金、貸付金とは、

企業を経営したり、商売をしたりする場合には、元手（資金）が必要になり、銀行などからお金を借り入れることがよくあります（借入金）。また、手元の資金に余裕がある場合は仲間の企業などにお金を貸す場合もあります（貸付金）。どちらの場合も時間の経過とともに利息（利子）が発生します。

（問題）

- 1 ① A銀行から短期資金として¥1,000,000（利率年1.5%、8か月間）を借り入れ、当座預金に振り込まれた。
②上記のA銀行からの借入金について、支払期日が到来したため、元利合計を当座預金から返済した。借入期間は当期中の8か月であった。
- 2 B銀行から借り入れていた¥730,000の支払期日が到来したため、元利合計を当座預金口座から返済した。なお、借入れにともなう利率は年2%、借入期間は100日間であり、利息は1年を365日として日割計算する。
- 3 KAZE商事（株）は、約束手形を振り出して甲商事（株）から¥100,000を現金で借り入れた。
- 4 ①得意先大阪商事（株）に期間9か月、年利率4.5%で¥400,000を借用証書にて現金で貸し付けた。
②上記の貸付金（¥400,000、年利率4.5%、9か月間）について、本日満期日のため利息とともに同店振出しの小切手で返済を受けたので、ただちに当座預金に預け入れた。借入期間9か月は当期中である。
- 5 米田商事（株）に¥600,000を貸し付け、同額の約束手形を受け取り、利息¥6,000を差し引いた残額を当社の当座預金口座から米田商事（株）の普通預金口座に振り込んだ。

（解答）

- 1 ①当座預金 1,000,000／借入金 1,000,000
②借入金 1,000,000／当座預金 1,010,000
支払利息 10,000
元利=元本（¥1,000,000）と利息（¥10,000）のこと

2 借入金 730,000／当座預金 734,000
支払利息 4,000

～ひとやすみ～

利息の日割り計算の問題では、365日が分母になるため、分子には「73」に関連する値がよく登場します。例えば、「73日」「146日」「73万円」「146万円」「1.46% ($=0.73 \times 2$)」「2.19% ($=0.73 \times 3$)」などです。

3 現金 100,000／手形借入金 100,000

- ・商品売買で約束手形を振り出した場合は「支払手形」勘定を用います。
- ・借り入れで約束手形を振り出した場合は「手形借入金」勘定を用います。
- ・借用書などで借り入れた場合は「借入金」勘定を用います。

4 ①貸付金 400,000／現金 400,000

②当座預金 413,500／貸付金 400,000

受取利息 13,500

5 手形貸付金 600,000／当座預金 594,000

受取利息 6,000

「手形」は2027年度から試験範囲から外れることになっており、「手形貸付金」「手形借入金」も同様に試験範囲から外れます。

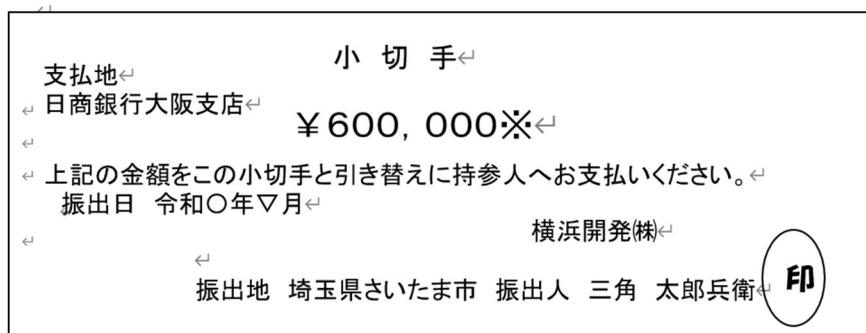
第17回 当座預金

・当座預金とは、

企業などが、小切手を発行して業務上の支払いや決済を行うための預金口座のことです。特徴としては、①利息（利子）が付かないという特徴があります。また、②当座借越契約という契約を結ぶことで、預金残高が足りなくても決済（支払い）することができる（＝銀行から借り入れるということ）という特徴もあります。

・小切手とは、

相手方に特定の金額を渡すことを約束した証券のことです。現金（お札）の代わりに小切手に金額を記入し、サイン（押印）をして渡すことで支払ったことになります。受け取った側はその小切手を銀行に持ち込むと、その金額が小切手を発行した人（＝振出人）の口座から引き落とされて、支払われます



（問題）

- 1 ① 商品¥200,000 を仕入れ、代金は小切手を振り出して支払った。なお、B 銀行の当座預金残高は¥150,000 であるが、B 銀行との間に借越限度額¥100,000 の当座借越契約を結んでいる。
② B 銀行の当座預金口座が¥50,000 の当座借越となっているため、決算において適切な勘定に振り替える。
- 2 商品 40,000 を売上、得意先振り出しの小切手を受け取った。

(解答)

- 1 ① 仕入 200,000／当座預金 200,000
- ② 当座預金 50,000／当座借越（借入金） 50,000

当座預金残高がマイナスになった場合は、当座借越（負債）勘定に振り替えます。

◆覚え方

当座が足りなきゃ、借りて越す
当座預金 借り越し

- 2 現金 40,000／売上 40,000

小切手を受け取った場合はすぐに現金化できるので、「現金」の増加として処理します。
小切手を振り出した（渡した）場合は、自社の当座預金口座から引き落とされるので「当座預金」の減少として処理します（試験によく出る重要なポイントです）。

◆覚え方

小切手は、ウケたら元気に、私は外様
受取り 現金 渡し 当座預金

第18回 未払費用、未払金

・未払費用とは、

借入金の利息や支払家賃など（決算日において、）既に費用が発生しているのに、支払日がまだ到来していない場合は未払費用という勘定科目で負債を計上します（発生主義）。

・未払金とは、

（商品以外の）モノを購入して、後日代金を支払うことにした場合（一回限りの買い物）は、未払金（負債）で処理します。

※商品を購入して（仕入れて）後日支払う場合は「未払金」ではなく「買掛金」を用います。

※支払利息、支払家賃や給料などのように日々、継続的に（徐々に）費用が発生するものについては「未払費用」を用います。物品購入やサービスの代金など、一度に発生するものは「未払金」を用います。

- 1 従業員が3月に働いた分の給料について、決算日時点未払額が¥6,000ある。決算整理仕訳を行う。
- 2 決算整理前残高試算表の借入金¥200,000は9月1日に借入期間1年、年利率3%で借り入れたもので、利息は元金とともに返済時に支払うことになっている。利息の計算は月割による。3月末日の決算整理仕訳を行う。
- 3 決算整理前試算表の支払利息¥20,000は、当期首から本期1月31日（利払日）までの借入金¥2,000,000に対する利息である。この借り入れは引き続き行っている。決算日（3月末）の仕訳を行う。
- 4 横浜青果は備品5,000を名古屋商事（株）から買い取り、代金は後日支払うこととした。
- 5 沖縄文具店は、文房具30,000を仕入れ、代金は後日支払うこととした。
- 6 従業員が業務のために立て替えた1か月分の諸経費は次のとおり。これらは来月の給料に含めて支払うこととし、未払分として計上した。
 - ・電車代 ¥6,000
 - ・タクシーレンタカー代 ¥4,000
 - ・書籍代（消耗品費）¥5,000

(解答)

1 給料 6,000／未払費用 6,000

例えば、3月21日から3月31日までの従業員の労働に対する給料をイメージしてください。

2 支払利息 3,500／未払費用（未払利息）3,500

3 支払利息 4,000／未払費用（未払利息）4,000

4 備品 5,000／未払金 5,000

5 仕入 30,000／買掛金 30,000

6 旅費交通費 10,000／未払金 15,000

消耗品費 5,000

備品の購入、旅費や交通費の支払いなど一回限りのもの（一度に発生するもの）は「未払金」で、光熱水費、家賃、利息など継続的に（徐々に）発生し続けるもの（継続的なサービス）は「未払費用」で処理します。

◆覚え方

一回モノは未払金。継続サービスは未払費用

車両、備品等の購入

光熱水費、家賃、利息…

第19回 未収収益、未収金

・未収収益とは、

貸し付けたお金の利息などについて（決算日において、）既に受け取るべき収益（利息）が発生しているのに、受取日がまだ到来していない場合は未収収益という勘定科目で資産を計上します（これが「発生主義」という考え方です（重要））。

・未収金（＝未収入金）とは、

（商品以外の）モノを販売して、後日代金を受け取ることにした場合は、未収金（資産）で処理します。

※商品を販売して（売上げて）後日代金を支払う場合は「未収金」ではなく、「売掛金」を用います。

※受取利息、受取家賃や給料などのように日々、継続的に（徐々に）発生するものについては「未収収益」を用います。物品販売やサービスの代金など、一度（一回）で発生するものは「未収金」を用います。（「未払金」「未払費用」と同じ関係です）

- 1 期末時点において、貸している部屋の家賃の未収分が¥24,000 ある。
- 2 決算整理前残高試算表の貸付金¥200,000 は当期 9 月 1 日に期間 1 年、年利率 3% の条件で貸し付けたもので、利息は返済時に一括して受け取ることになっている利息計算は月割とし、決算日（12 月 31 日）の仕訳を行う。
- 3 ① P 社は、Q 社に車両 10,000 円を売却し、代金は月末に受け取ることとした。
② 月末になり、P 社は、Q 社から上記の代金の未収分 10,000 円を、現金で受け取った。
- 4 家具店である Z 商会（株）は、イス¥5,000 を X 商事（株）に売却し、代金は後日受け取ることにし

（解答）

- 1 未収収益 24,000／受取家賃 24,000
- 2 未収収益（未取利息）2,000／受取利息 2,000
決算日が 12 月 31 日という問題もたまに出るので注意してください。
- 3 ① 未収金 10,000／車両運搬具 10,000
② 現金 10,000／未収金 10,000
- 4 売掛金 5,000／売上 5,000

第 20 回 前払費用、前受収益

・前払費用とは、

支払家賃は支払利息など（決算日において、）来期以降に支払うべき費用について、前もって支払いを済ませてしまっている場合は前払費用（資産）勘定で処理します。（発生主義の考え方）。

・前受収益

車両や備品の売却など（決算日において、）来期以降に受け取るべき収益について、受け取りを済ませてしまっている場合は前受収益（負債）勘定で処理します。（発生主義の考え方）。

（問題）

- 1 3月16日に向こう1か月分の家賃¥30,000を支払い、仕訳を行っている。期末において、前払額が¥15,000ある。
- 2 決算整理前残高試算表の借入金¥1,000,000は当期の2月1日に借入期間1年、年利率4.5%で借り入れたものであり、借入時に1年分の利息を差し引かれた金額を受け取った。3月末日の決算時の整理仕訳を行う。
- 3 決算整理前残高試算表の受取手数料のうち¥360,000（月額¥30,000）は、5月1日に、向こう1年間の手数料を受け取ったものである。3月末日の決算整理仕訳を行う。
- 4 Y社はS社に土地を貸し付けている。年間の土地の使用料は¥12,000である。Y社は×1年12月1日に1年分の土地使用料を受け取っている。決算日（3月31日）の仕訳を行う。

（解答）

- 1 前払費用（前払家賃）15,000／支払家賃 15,000
- 2 前払費用（前払利息）37,500／支払利息 37,500
- 3 受取手数料 30,000／前受収益（前受手数料） 30,000
- 4 受取地代 8,000／前受収益（前受地代） 8,000

第21回 再振替仕訳

・再振替仕訳とは、

前期の決算において、未払費用、未収収益、前払費用、前受収益を計上した場合、翌期の期首（4月1日）に逆仕訳を行い、その期に計上すべき費用や収益を計上します。

例えば、2月1日から翌年1月31日までの家賃1年間分（12万円）を後払い（1月31日に支払う）する場合



①決算日（3月31日）に、発生している2か月分の家賃を計上する仕訳をします。

支払家賃2万円／未払家賃2万円

②翌期首（4月1日）に再振替仕訳（決算日の逆仕訳）を行います。

未払家賃2万円／支払家賃2万円

③1月31日に12万円を支払う仕訳を行います。

支払家賃12万円／現金12万円

②と③の仕訳によって、II期の家賃の発生額である10万円が正しく計上されます。

また、①と②の仕訳により未払費用（負債）が解消されます。

なお、②の仕訳を行わずに、1月31日に、

支払家賃10万円／現金12万円

未払家賃2万円

とすることも考えられますが、簿記のルールとして「決算日に未払費用などを計上した場合は翌期首に再振替仕訳を行う」ことになっています。

（問題）

- 1 前期の決算において未収利息¥36,000を計上していたので、本日（当期首）再振替仕訳を行った。
- 2 前期末、受取手数料の前受分が¥30,000あったので、当期首に再振替仕訳を行った。

(解答)

- 1 受取利息 36,000／未収利息（未収収益）36,000
- 2 前受手数料（前受収益）30,000／受取手数料 30,000

「再振替仕訳をしなさい」という問題は、決算時の逆仕訳をします。

◆覚え方

再振替仕訳ができない？ 「ギャグ（逆）でしょ！」
逆仕訳

第 22 回 売上原価の算定

・売上原価とは、

売り上げた商品の原価（＝仕入れ価格）の合計額のことです。その月の利益（売上総利益と言います。）を計算するためには、売上額の合計から売上原価の合計を差し引いて計算するので、売上原価がわからないと利益が計算できません。

・売上原価の算定とは、

リンゴを売る商売を想定してください。

例えば今月、一個あたり 30 円で仕入れた商品（リンゴ）100 個売った場合、売上原価は 3,000 円となります。ひとつ 50 円で売ったのであれば、販売額は 5,000 円、利益は 2,000 ですね。

では別の月のケースで、前月からの繰越した商品 5 個と、今月仕入れた商品 100 個の合計 35 個売った場合の売上原価はいくらでしょうか。前月は 1 個あたり 35 円で仕入れていました。

$$(@35 \times 5 \text{ 個}) + (@30 \text{ 円} \times 100 \text{ 個}) = 3,175 \text{ 円} \text{ となります。}$$

さらに別の月のケースで、前月からの繰越した商品 5 個と、今月仕入れた商品 100 個の合計 35 個売った（ここまで前月のケースと同じ）だったが、今月仕入れたうちの 5 個は売れ残っていたことが分かった、という場合、売上原価はいくらでしょう。

$$\frac{(@35 \times 5 \text{ 個})}{\text{前期からの繰越商品}} + \frac{(@30 \text{ 円} \times 100 \text{ 個})}{\text{当期の仕入れ分}} - \frac{(@30 \times 5 \text{ 個})}{\text{次期への繰越商品}} = 3,025 \text{ 円} \text{ となります。}$$

この場合、当然前期に仕入れたものから順に売れていったものとして考えます。

これが売上原価の算定の基本的な考え方です。

・三分法とは、

商品売買について、仕入、繰越商品、売上の 3 つの勘定科目で処理することです。（そのほか、分記法、売上原価対立法などの方法もありますが、3 級では三分法のみを扱います。（2027 年度からは売上原価対立法も 3 級の試験範囲になります。））三分法では、上記のように売上原価の算定を「仕入」と「繰越商品」の金額で行います。

（問題）

1 ①次の資料にもとづいて、（ア）売上原価を算定する仕訳を示しなさい。また、（イ）売上原価を求めなさい。なお、当社では売上原価は仕入勘定で算定している。

期首商品棚卸高 80 円（＝@4 円 × 20 個）

当期商品仕入高 900 円（＝@5 円 × 180 個）

期末商品棚卸高 200 円（＝@5 円 × 40 個）

②商品は一個あたり 8 円で販売し、150 個売れた。当期の売上総利益を求めなさい。

2 期末商品棚卸高は ¥330,000 である。当期の仕入れ額は、¥4,300,000、期首の繰越商品高は¥480,000 であった。決算時の仕訳を行う。売上原価は「仕入」の行で計算する。

(解答)

- 1 ① (ア) 仕入 80／繰越商品 80
繰越商品 200／仕入 200
(イ) $80 \text{ 円} + 900 \text{ 円} - 200 \text{ 円} = 780 \text{ 円}$
② (@8×150 個) $- 780 \text{ 円} = 420 \text{ 円}$
- 2 仕入 480,000／繰越商品 480,000
繰越商品 330,000／仕入 330,000

◆覚え方

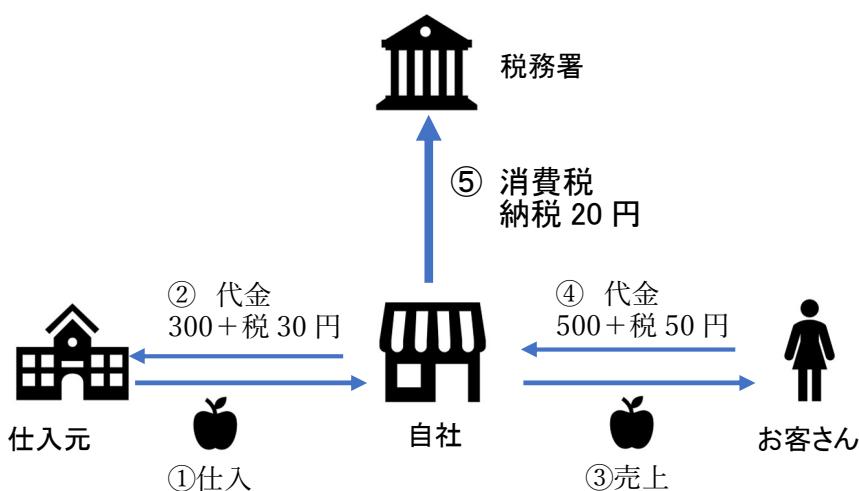
「売上原価の算定」は、し一、くり、くり、し一
(「仕入・くりしょう」「くりしょう・仕入」)

第23回 消費税

・消費税の仕組み

次の流れで消費税を納めます。

- ①② 仕入れ先から 300円の商品を仕入れ、消費税を30円支払います。
- ③④ その商品をお客さんに500円で売り上げ、消費税50円を預かります。
- ⑤ 預かった消費税50円(④)と支払った消費税30円(②)の差額20円を納税します。



- 1 商品¥330（税込み）を掛けで仕入れた。（税抜き方式で記帳する）
- 2 商品¥440（税込み）を掛けで売り上げた
- 3 ① 決算にあたり、消費税の納付額を算定した。
なお、当期の仮払消費税勘定の残高は¥3,000、仮受消費税勘定の残高は¥4,000であった。
② 翌期となり、①の消費税を現金で納税した

(解答)

- 1 仕入 300 ／買掛金 330
仮払消費税 30
- 2 売掛金 440／売上 400
仮受消費税 40
- 3 ①仮受消費税 4,000／仮払消費税 3,000
未払消費税 1,000
②未払消費税 1,000／現金 1,000

3 ①の仕訳にたどり着くようになりますがポイントです。

仮受消費税（4千円） = 仮払消費税（3千円） + 未払消費税（千円）をイメージします。

◆覚え方

消費税 、 受けて、 払って、 残りは 未払い
仮受消費税 = 仮払消費税 + 未払消費税

第24回 法人税等、租税公課

・法人税、住民税及び事業税とは、

法人税、住民税及び事業税は皆、企業のもうけ（利益）に課せられる税金のことです。この3つの税金をまとめて「法人税等」と言います。

◆覚え方

ホウさんが、十時に払う法人税等
法人税 住民税 事業税

法人税等の計算方法は、

法人税等 = 税引き前当期純利益 × 税率

で、求めます。

法人税等は、年に2回納税します。年度の途中で、半年分の概算額を納付（中間申告）し、決算時に年額を算定し、その後未払い分を納付（確定申告）します。（半年分の概算額は前年度の利益から求めます）

・租税公課とは、

固定資産税（建物や土地を所有している場合にかかる税金で、毎年、納税します）や、自動車税（自動車を所有している場合にかかる税金です）、印紙税（契約書や領収書などに貼る印紙代金で、支払った印紙代は印紙税となります）など、費用として計上する税金を租税公課といいます。

◆覚え方

総勢で、コテージにインする
租税公課 固定資産税、自動車税 印紙税

~ひとやすみ~ 3級で覚える税金のまとめ

- ・消費税：商品やサービスの取引にかかる税金です。費用にならない税金です
- ・法人税、住民税、住民税：その期の儲け（利益）が出たときに課される税金です。この3つをまとめて「法人税等」と言います。これも費用にならない税金です。
- ・租税公課：固定資産税、自動車税、印紙税などのことをいいます。費用（販売費及び一般管理費）となる税金です。

(問題)

- 1 法人税、住民税及び事業税の中間申告にあたり、前年度の確定税額¥2,000,000 の 50% を現金で納付した。
- 2 決算となり、法人税、住民税及び事業税が¥2,200,000 と算定された。¥1,000,000 は中間納付している。
- 3 翌期となり、確定申告の納付書により、¥1,200,000 を普通預金口座から入金した。
- 4 収入印紙¥7,000 を購入し、代金は現金で支払った。なお、この収入印紙はただちに使用した。
- 5 固定資産税¥30,000 が当座預金口座から引き落とされた。

(解答)

- 1 仮払法人税等 1,000,000／現金 1,000,000
- 2 法人税等 2,200,000／仮払法人税等 1,0000,000
未払法人税等 1,200,000
- 3 未払法人税等 1,200,000／普通預金 1,200,000
- 4 租税公課 7,000／現金 7,000
(使用されずに決算時点で残っていた印紙は、租税公課を「貯蔵品」に振り替えます)
- 5 租税公課 30,000／当座預金 30,000

第 25 回 純資産

・純資産とは、

- ①資産と負債の差額のことです。
- ②3 級では純資産の部の内訳として、「資本金」「利益準備金」「繰越利益剰余金」の 3 種を覚えます。

・資本金とは、

企業が投資家からうけた資金のこと。

投資家は、投資した企業の①（投資した分だけ）経営に参加できる、②企業がもうかった時には（投資額に応じて）配当金をもらうことができる、という権利があります。投資を受けた企業は投資された資金を返済する必要はありません。

～ひとやすみ～

例えば「資本金 100 万円の企業」といった場合、その会社が現金を 100 万円持っているという意味ではありません。資本金とは、会社設立時にいくらの投資を集めたかという意味です。設立時に受けた 100 万円は建物を購入したり、仕入れ代金を支払ったりするので、そのまま残っているわけではありません。

・繰越利益剰余金とは、

会社が創設以来、累積で積み上げて（貯めて）きた利益（当期純利益）の合計のことです。損失が出た場合は減ることもあります。繰越利益剰余金を用いて株主への配当を行います。

・利益準備金とは、

会社法において、配当を行う場合は、債権者（金融機関＝銀行）への返済すべき金額を準備しておくために利益準備金への積み立てを義務付けらえる場合があります。（どのように義務付けられるかは 2 級以上で学習します。）

（問題）

- 1 関東商事株式会社の設立にあたり、株式 200 株を 1 株当たり ¥80,000 で発行し、全額払い込みがあったため、当座預金口座に預け入れた。
- 2 株主総会で、繰越利益剰余金を財源とした剰余金の配当などが次のとおり決定した。
株主配当金 ¥300,000、 利益準備金の積立て ¥30,000

(解答)

株主総会の時点では、まだ配当（株主への配当金の支払い）はしていないので、「未払配当金」で仕訳をします。実際に支払時に「未払配当金 30 万円／現金 30 万円」などと仕訳をします。

また、会社法という法律で配当したときは一定金額を利益準備金に積み立てることが決まっており、配当と「利益準備金への積み立て」はセットで出題されることがよくあります。(詳しくは2級で学習します。)

第 26 回 現金過不足

・現金過不足とは、

帳簿上の現金残高と、実際に手元にある現金の金額が一致しない状態のときに用いる勘定科目です。後日、不一致の原因が判明した際には、「現金過不足」勘定を取り消します。

決算時点で、どうしても不一致の原因が判明しないときには「雑損」または「雑益」の勘定科目で処理します。

- 1 月末に金庫を実査したところ、紙幣¥100,000、硬貨¥5,800、得意先振出しの小切手¥10,000、約束手形¥20,000、郵便切手¥1,000 が保管されていたが、現金出納帳の残高は¥116,000 であった。不一致の原因を調べたが原因は判明しなかったので、現金過不足勘定で処理することにした。
- 2 決算時、現金過不足¥1,000（借方）のうち¥800 は通信費の記入漏れであることが判明した。残額は不明のため適切に処理した。
- 3 現金の帳簿残高が実際有高より¥10,000 少なかつたので現金過不足として処理していくが、決算日において、受取手数料¥15,000 と、旅費交通費¥7,000 の記入漏れが判明した。残額は原因が不明だったので、雑益または雑損として処理する。

（解答）

- 1 現金過不足 200／現金 200
- 2 通信費 800／現金過不足 1,000
雑損 200
- 3 旅費交通費 7,000 ／受取手数料 15,000
現金過不足 10,000 雜益 2,000

第27回 伝票(第2問対策)

・伝票とは、

経理の担当者が一人の場合は、日々の取引を「仕訳帳」に記入していくことができますが、経理の担当者が複数いる場合は一冊の仕訳帳で管理するのは非常に不便です。そのような場合には仕訳を記入する「伝票」という紙片を用います。伝票は一枚ずつ切り離すことができるの、複数の担当者が手分けしながら仕訳作業することができます。

3級で学習する伝票は「入金伝票」「出金伝票」「振替伝票」の3種類です。

・入金伝票とは、

入金したときに用いる伝票です。

「現金1,900／売上1,900」という仕訳を入金伝票で起票すると次のようになります。

「入金」を示す伝票なので、借方の「現金」は記入しません。

入金伝票		No. _____	承認印	承認印	会計印	担当印
		〇〇〇〇年〇〇月〇〇日				
コード	入金先					
勘定科目		摘要		金額		
売上		リンゴ 50個 @38円		1,900		
合計				1,900		

・出金伝票とは、

出金したときに用いる伝票です。

「旅費交通費 11,000／現金 11,000」を出金伝票で起票するとつぎのようになります。

「出金」を示す伝票なので、貸方の「現金」は記入しません。

・振替伝票とは、

入金、出金以外の取引のときに用いる伝票です。

「売掛金 50,000／売上 50,000」という仕訳を振替伝票で示すと次のようにになります。

振替伝票		No.	承認印	承認印	会計印	担当印
0000年00月00日						
金額	借方科目	摘要	貸方科目	金額		
50,000	売掛金	株式会社業	売上	50,000		
50,000		合計		50,000		

(問題) 次の1~4の取引が行われた場合の伝票の空欄を埋めなさい。

使用しない伝票は「記入なし」とすること。

1 商品を¥150,000で仕入れ、代金のうち、¥50,000は現金で支払い、残額を掛けとした。

(①、②それぞれの方法で行う)

①

出金伝票		振替伝票			
科 目	金 額	借方科目	金 額	貸方科目	金 額
()	()	()	150,000	()	150,000

②

出金伝票		振替伝票			
科 目	金 額	借方科目	金 額	貸方科目	金 額
()	()	()	100,000	()	100,000

2 商品を¥220,000で売り渡し、代金のうち¥20,000については得意先振り出しの小切

手で受け取り、残額を掛けとした。(①、②それぞれの方法で行う)

①

入金伝票		振替伝票			
科 目	金 額	借方科目	金 額	貸方科目	金 額
売上	()	売掛金	()	()	()

②

入金伝票		振替伝票			
科 目	金 額	借方科目	金 額	貸方科目	金 額
売掛金	()	売掛金	()	()	()

3 商品を¥500,000 で売り上げ、代金は掛けとした。また、顧客負担の送料¥4,000 を現金で支払い、掛け金に含める記録を行った。

出金伝票		振替伝票			
科 目	金 額	借方科目	金 額	貸方科目	金 額

4 先日、旅費交通費支払用の IC カードに現金¥10,000 を入金し、仮払金で処理をした(処理済み)。本日そのうち¥4,000 分を使用し、費用処理した。

出金伝票		振替伝票			
科 目	金 額	借方科目	金 額	貸方科目	金 額

(解答)

1 ①

出金伝票	
科目	金額
買掛金	50,000

振替伝票			
借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	150,000	買掛金	150,000

②

出金伝票	
科目	金額
仕入	50,000

振替伝票			
借方科目	金額	貸方科目	金額
仕入	100,000	買掛金	100,000

2 ①

入金伝票	
科目	金額
売上	20,000

振替伝票			
借方科目	金額	貸方科目	金額
売掛金	200,000	売上	200,000

②

入金伝票	
科目	金額
売掛金	20,000

振替伝票			
借方科目	金額	貸方科目	金額
売掛金	220,000	売上	220,000

3

出金伝票	
科目	金額
売掛金	4,000

振替伝票			
借方科目	金額	貸方科目	金額
売掛金	500,000	売上	500,000

4

出金伝票	
科目	金額
記入なし	

振替伝票			
借方科目	金額	貸方科目	金額
旅費交通費	4,000	仮払金	4,000

第28回 T字勘定の考え方・補助簿(第2問対策)

・T字勘定とは、

総勘定元帳の各項目を簡略化した図のことです。

次の現金の総勘定元帳をT字勘定で示すと下のようになります(両者は同じことを表しています。)

【総勘定元帳】

現金

	相手勘定科目	摘要	仕丁	借方金額	貸方金額	残高
		繰越残高				1,000
1 7	売上			100		1,100
11	売掛金			10		1,110
15	備品				100	1,010
20	売上			150		1,200

【T字勘定】

現 金		
前期繰越	1,000	備品 100
売上	100	
売掛金	10	
売上	150	

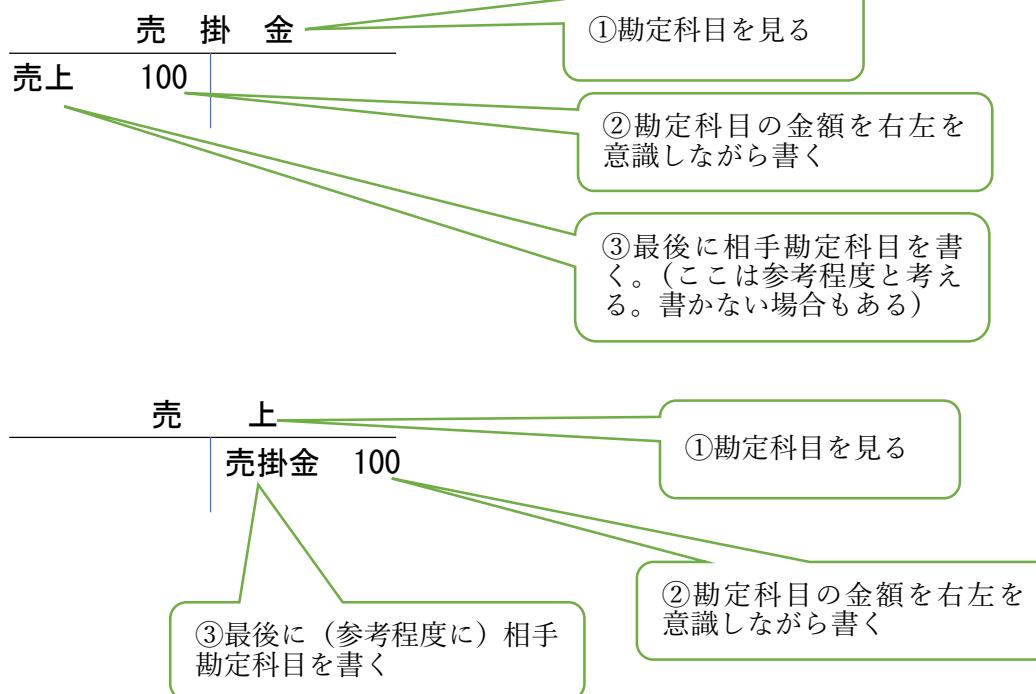
・T字勘定の見方、書き方

例) 商品 100 円を掛けで売り上げた。

→仕訳は、「**売掛金 100／売上 100**」となります。

この場合、それぞれの科目のT字勘定は次の通りとなります。

【T字勘定】



次の固定資産台帳（一部）に基づいて、備品勘定と備品減価償却累計額勘定の（ ）を埋めよ。定額法による減価償却が行われており、残存価額はゼロ、月割計算による。当期は×8年度、決算日は3月31日である。

固定資産台帳

備 品 ×9年3月31日現在

取得日	摘要	耐用年数	取得原価
×5年4月1日	No.1	6年	90,000
×7年12月1日	No.2	8年	360,000
×8年5月1日	No.3	5年	180,000

備 品

4月1日	前期繰越 ()	3月31日	次期繰越 ()
5月1日	普通預金 ()		
	()		()

備品減価償却累計額

3月31日	次期繰越 ()	4月1日	前期繰越 ()
		3月31日	減価償却費 ()
	()		()

【解答】

備 品

4月1日	前期繰越	450,000	3月31日	次期繰越	630,000
5月1日	普通預金	180,000			
		630,000			630,000

備品減価償却累計額

3月31日	次期繰越	153,000	4月1日	前期繰越	60,000
			3月31日	減価償却費	93,000
		153,000			153,000

第29回 T字勘定・帳簿の締め切り(第2問対策)

・帳簿の締め切りとは、

期末(=決算日)において決算整理を行った後、その期の各科目の決算額を決めるために帳簿上、一年間の区切りをつけることです。

・損益項目の締め切り

まず、費用・収益の各科目を損益勘定に振り替えて帳簿を締め切ります。(詳しくは次の回で学習します。)

仕 入	
現金 100	仕入戻し 10
買掛金 150	
現金 50	損益 290
	300
	300

① 線を引いて右と左に合計値300と書く(金額の大きい方に合わせる)

② 差し引きで「損益」勘定を書く

③ 二重線を引いて締め切る

費用・収益の各科目を「損益勘定」にまとめると、貸借対照表が出来上がり差額から当期純利益が求められます。(この当期純利益の額は、毎期、貸借対照表の繰越利益剰余金に積み上げられています。)

・貸借項目の締め切り

次に、資産・負債・純資産の各項目は「次期繰越」を記入し帳簿を締め切ります。

(費用・収益の各項目と資産・負債・純資産の各項目とは締め切り方異なります。費用と収益はその期限りで精算しますが、資産・負債・純資産の各項目の残額は次の期に繰り越すからです(次回以降で詳しく説明します。))

現 金	
売上 100	仕入 100
売掛金 150	発送費 50
売上 50	
売掛金 100	次期繰越 250
	300
前期繰越 250	300

① 左右に合計値300と書く(金額の大きい方に合わせる)

② 差し引きで「次期繰越」を書く

③ 二重線を引いて締め切る

④ 前期繰越(次期の分)を書く

◆覚え方

締め切りは、P L「損益」、B S「次期繰り」
帳簿の締め切り 収益・費用 資産、負債など

最初のころに覚えた次の語呂合わせも思い出してください。この二つ語呂合わせの意味はほとんど同じです。

◆覚え方

P L 学園、儲けた。ベイスターズ、貯めた。
P/L 損益 B/S 貸借

(問題)

カゼ(株)は、X3年6月1日に保険契約を結んだ。年間の支払金額は¥4,800である。この契約では毎年6月1日と12月1日に、向こう半年分¥2,400を現金で前払いすることになっている。当期の支払保険料勘定と前払保険料勘定を記入せよ。決算日は3月31日。

総勘定元帳

支払保険料

X3.6.1	()	()	X4.3.31	()	()
X3.12.1	()	()	X4.3.31	()	()
		()			()

前払保険料

X4.3.31	()	()	X4.3.31	()	()
		()			()
X4.4.1	()	()			

(解答)

総勘定元帳

支払保険料

X3.6.1	現金	2,400	X4.3.31	前払保険料	800
X3.12.1	現金	2,400	X4.3.31	損益	4,000
		4,800			4,800

前払保険料

X4.3.31	支払保険料	800	X4.3.31	次期繰越	800
		800			800
X4.4.1	前期繰越	800			

(問題)

次の【資料】にもとづいて、備品勘定、備品減価償却累計額勘定と減価償却費勘定の（　　）を埋めなさい。決算日は3月31日である。

【資料】

X2年4月1日 備品￥300,000を小切手を振り出して購入した。

X3年3月31日 定額法によって減価償却費を計上する。

耐用年数は5年、残存価額はゼロである。

10月1日 備品￥200,000を小切手を振り出して購入した。

X4年3月31日 定額法によって減価償却費を計上する。

10月1日に購入した備品も耐用年数5年、残存価額はゼロである。

総勘定元帳
備 品

X2.4.1 () 300,000 300,000 <hr/>	X3.3.31 () 300,000 300,000 <hr/>
X3.4.1 前期繰越 300,000 10.1 () () <hr/>	X4.3.31 () () <hr/>
X4.4.1 () () 	

備品減価償却累計額

X3.3.31 () () () <hr/>	X3.3.31 () () () <hr/>
X4.3.31 次期繰越 () <hr/>	X3.4.1 () () X4.3.31 () () <hr/>
X4.4.1 前期繰越 () 	

減価償却費

X3.3.31 () () () <hr/>	X3.3.31 () () () <hr/>
X4.3.31 () () <hr/>	X4.3.31 () () <hr/>

(解答)

総勘定元帳

備 品

X2.4.1	当座預金	300,000	X3.3.31	次期繰越	300,000
		300,000			300,000
		<hr/>			<hr/>
X3.4.1	前期繰越	300,000	X4.3.31	次期繰越	500,000
10.1	当座預金	200,000			
		500,000			500,000
		<hr/>			<hr/>
X4.4.1	前期繰越	500,000			

備品減価償却累計額

X3.3.31	次期繰越	60,000	X3.3.31	減価償却費	60,000
		60,000			60,000
		<hr/>			<hr/>
X4.3.31	次期繰越	140,000	X3.4.1	前期繰越	60,000
		<hr/>	X4.3.31	減価償却費	80,000
		140,000			140,000
		<hr/>			<hr/>
			X4.4.1	前期繰越	140,000

減価償却費

X3.3.31	減価償却累計額	60,000	X3.3.31	損益	60,000
		60,000			60,000
		<hr/>			<hr/>
X4.3.31	減価償却累計額	80,000	X4.3.31	損益	80,000
		80,000			80,000
		<hr/>			<hr/>

第30回 T字勘定・買掛金勘定(第2問対策)

カゼ株式会社の10月中の買掛金の勘定記録は以下のとおりである。 () を埋めよ。カゼ(株)の得意先はA商店、B商店の2店のみである。

総勘定元帳

買掛金

10月9日	仕入	()	10月1日	前月繰越	330,000
15日	()	331,000	8日	()	()
()日	仕入	()	()日	()	821,000
25日	普通預金	()			
31日	次月繰越	293,000			
		()			()

買掛金元帳

A商店

10月22日	()	()	10月1日	前月繰越	210,000
25日	普通預金払い	925,000	21日	仕入	()
31日	()	()			
		1,031,000			1,031,000

B商店

10月9日	返品	()	10月1日	前月繰越	120,000
15日	現金払い	()	8日	仕入	418,000
31日	()	198,000			
		538,000			538,000

【解答】

総勘定元帳

買掛金

10月9日	仕入	(9,000)	10月1日	前月繰越	330,000
15日	(現金)	331,000	8日	(仕入)	(418,000)
(22) 日	仕入	(11,000)	(21) 日	(仕入)	821,000
25日	普通預金	(925,000)			
31日	次月繰越	293,000			
		<u>(1,569,000)</u>			<u>(1,569,000)</u>

買掛金元帳

A商店

10月22日	(返品)	(11,000)	10月1日	前月繰越	210,000
25日	普通預金払い	925,000	21日	仕入	(821,000)
31日	(次月繰越)	(95,000)			
		<u>1,031,000</u>			<u>1,031,000</u>

B商店

10月9日	返品	(9,000)	10月1日	前月繰越	120,000
15日	現金払い	(331,000)	8日	仕入	418,000
31日	(次月繰越)	198,000			
		<u>538,000</u>			<u>538,000</u>

第31回 T字勘定・完全理解(第2問対策)

KAZE(株)（決算は3月31日）における取引及び締切りについて（ ）を埋めよ。

9月30日 銀行から1,200,000円を借り入れ（利率年1.5%、期間1年、利払日9月末日と3月末日）、同額が普通預金口座に振り込まれた。

12月1日 銀行から2,000,000円を新たに借り入れ（利率年1.2%、期間1年、利払日5月末日と11月末日）、同額が普通預金口座に振り込まれた。

3月31日 9月30日の借入金について、利息を普通預金口座から支払った。また、未払い分の利息を計上した。

支払利息

3月31日	普通預金	()	3月31日	()	()
3月31日	未払利息	()			
		<u>()</u>			<u>()</u>

未払利息

3月31日	()	()	3月31日	()	()
	<u>()</u>	<u>()</u>			<u>()</u>

【解答】

支払利息

3月31日	普通預金	(9,000)	3月31日	(損益)	(17,000)
3月31日	未払利息	(8,000)			
		<u>(17,000)</u>			<u>(17,000)</u>

未払利息

3月31日	(次期繰越)	<u>(8,000)</u>	3月31日	(支払利息)	<u>(8,000)</u>
-------	--------	----------------	-------	--------	----------------

KAZE(株)（決算は3月31日）における取引について（ ）を埋めて締め切りなさい。

- 7月1日 未払金70,000円を普通預金から支払った。その際、振込手数料300円が同口座から引き落とされた。
- 9月30日 土地1,200,000円を購入し、代金は小切手を振り出して支払った。その際、仲介手数料15,000円は現金で支払った。
- 3月1日 向こう3か月分の調査手数料60,000円（1か月あたり20,000円）を現金で支払い、その全額を支払手数料勘定で処理した。
- 3月31日 3月1日に支払った手数料のうち前払い分を月割で計上した。

支払手数料

7月1日	()	()	()	()	()	()
()	現金	()	3月31日	()	()	
		<u>()</u>			<u>()</u>	

前払手数料

3月31日	()	()	3月31日	()	()
		<u>()</u>			<u>()</u>
					<u>()</u>

【解答】

支払手数料

7月1日	普通預金	300	3月31日	前払手数料	40,000
3月1日	現金	60,000	3月31日	損益	20,300
		<u>60,300</u>			<u>60,300</u>

前払手数料

3月31日	支払手数料	40,000	3月31日	次期繰越	40,000
		<u>40,000</u>			<u>40,000</u>

(注意)

9月30日の仕訳は、

土地 1,215,000／当座預金 1,200,000

現金 15,000

となり支払手数料は発生していません。土地、建物、商品、備品などを取得した際の手数料は付随費用として取得原価に加えます。

◆覚え方

固定資産、使えるようになるまでは、取得原価

運送費、保険料、試運転費、購入手数料など

第32回 損益勘定への振替(第2問対策)

決算にあたり、損益項目（＝費用と収益）の各勘定科目の金額を、「損益」勘定に振り替えます。その後、各勘定で振り替えられた損益勘定をT字勘定で集計します。

作成したT字勘定において、収益の総額と費用の総額の差が当期純利益となります。

損益勘定で計算された当期純利益は、貸借対照表軸体諸表の繰越利益剰余金に加えられます。

(問題)

- 1 仕入勘定において算定された売上原価 ¥2,800,000 を損益勘定に振り替えた。
- 2 売上勘定において算定された売上高 ¥3,000,000 を損益勘定に振り替えた。

(解答)

- 1 損益 2,800,000／仕入 2,800,000
- 2 売上 3,000,000／損益 3,000,000

第33回 繰越利益剰余金への振替(第2問対策)

当期の損益の金額は損益計算書の「当期純利益」となり、その金額が貸借対照表の「繰越利益剰余金」に加えられます。

当期純利益は当期のもうけを表し、繰越利益剰余金は会社が創立してからこれまでに積み上げられてきた利益の合計額を表します（「累積損益」ともいいます。）

◆覚え方

P L 学園、儲けた。ベイスターズ、貯めた。

P／L 損益 B／S 貸借

(問題)

次の資料から損益勘定と繰越利益剰余金勘定の（ ）を埋めなさい。決算日は3月31日。

資料

- 1 総売上高 ￥12,000,000
- 2 売上戻り高 ￥135,000
- 3 仕入勘定の決算整理前残高 ￥8,200,000
- 4 期首の商品棚卸高 ￥550,000
- 5 期末の商品棚卸高 ￥600,000
- 6 保険料勘定決算整理前残高 ￥80,000 (うち￥14,000は翌期分の前払いであったので振り替えた。)

損 益		
3月31日	売上原価 ()	3月31日 売上 ()
〃 納入料	2,400,000	〃 受取手数料 215,000
〃 消耗品費	7,000	
〃 減価償却費	120,000	
〃 水道光熱費	337,000	
〃 保険料 ()		
〃 () ()		
	<u>()</u>	<u>()</u>

繰越利益剰余金		
3月31日 次期繰越 ()	4月1日 前期繰越 500,000	
<u>()</u>	<u>()</u>	
	<u>()</u>	

【解答】

損益		
3月31日	売上原価	(8,150,000)
〃	給料	2,400,000
〃	消耗品費	7,000
〃	減価償却費	120,000
〃	水道光熱費	337,000
〃	保険料	(66,000)
〃	(繰越利益剰余金)	(1,000,000)
		<u>(12,080,000)</u>
		<u>(12,080,000)</u>

繰越利益剰余金

3月31日	次期繰越	(1,500,000)	4月1日	前期繰越	500,000
		<u>1,500,000</u>	3月31日	(損益)	<u>(1,000,000)</u>
					<u>1,500,000</u>

第34回 補助簿の選択(第2問対策)

・主要簿と補助簿とは、

仕訳帳と総勘定元帳は必ず作成しなければならない帳簿で「主要簿」と言います。それに対し、それ以外の帳簿は必要に応じて作成されるもので、「補助簿」と呼ばれます。補助簿には、現金出納帳、売上帳、当座預金出納帳、買掛金元帳、固定資産台帳、商品有高帳などがあります。

※商品有高帳とは、

商品の在庫状況を管理する補助簿です。商品を仕入れたら「受入欄」に、売上げたら「払出欄」に記帳していきます。(3級の試験対策で非常に重要な帳簿となります。)

(問題)

KAZE(株)は次の表にある補助簿を用いている。(1)～(6)の取引はどの補助簿を用いるか、用いるものに○を付けなさい。(記入不要の場合は記入なしを選択すること)

- (1) 甲商事(株)より商品￥1,000 を仕入れ、￥600 は約束手形を振り出して支払い、残額は掛けとした。
 - (2) 乙商事(株)に対する買掛金￥3,000 の支払いのために、同店あての約束手形を振り出した。
 - (3) A(株)に商品￥10,000 を売り上げ、代金のうち￥5,000 は先方振出の約束手形を受け取り、残額は小切手で受け取った。
 - (4) B商事(株)に対する売掛金￥4,000 を、同店振り出しの小切手で回収した。
 - (5) C商事(株)に対する売掛金残高￥50,000 に対して、1 %の貸倒引当金を設定した。
 - (6) 機械 400,000 を購入する契約をした際に手付金 100,000 を支払い、仮払金勘定で処理していた(処理済み)が、本日、機械が納入され残額を現金で支払った。

【解答】

	現金 出納帳	仕入帳	売上帳	商品 有高帳	売掛金 元帳 (得意 先元帳)	買掛金元 帳 (仕入先 元帳)	受取手 形記入 帳	支払手 形記入 帳	固定資 産台帳	記入 なし
(1)		○		○		○		○		
(2)						○		○		
(3)	○		○	○			○			
(4)	○				○					
(5)										○
(6)	○								○	

仕入、売上の際には、「商品有高帳」の記帳に注意しましょう。(仕入戻り、売上げ戻りにも注意です)

◆覚え方

「補助簿の選択」では「商品有高帳」に要注意！

第35回 商品有高帳(移動平均法、先入先出法)(第2問対策)

・商品有高帳とは、

商品の在庫状況を管理する補助簿です。商品を仕入れたら「受入欄」に、売上げ(=払い出し)たら「払出欄」に記帳していきます。そして、その都度、残高欄に残高の状況(数量や単価)を記帳していきます。これらの記帳方法は「移動平均法」と「先入先出法」の2種類があります。3級試験では両方とも出題されます。

・移動平均法とは、

商品を受け入れるたびに、商品の合計金額を合計数量で割って平均単価を計算していく方法です。売り上げる(払いだす)時には、その時点での平均単価を払出単価とします。

・先入先出法とは、

先に受け入れたものから先に払い出したとみなして、払出単価を決める方法です。

(問題)

次の3月中のりんごの仕入れ、販売の取引について、次の各問いに答えなさい。

- ・前月からのりんごの繰越高は、150個、@¥260であった。
- ・3日、@¥400のりんごを90個、売り上げた。
- ・10日、3日に販売したりんごのうち10個が返品された。
- ・15日、@¥280のりんごを70個、仕入れた。
- ・20日、@¥400のりんごを100個、売り上げた。

(問1) 移動平均法にもとづいて、商品有高帳に記入しなさい。なお、売上戻りについては受入欄に記入すること。

(問2) 総売上高はいくらか。

(問3) 純売上高はいくらか。

(問4) 移動平均法にもとづいて、3月のりんごの売上総利益はいくらか。

(問5) 先入先出法にもとづいて、商品有高帳に記入しなさい。なお、売上戻りについては受入欄に記入すること。

(問6) 先入先出法にもとづいて、3月のりんごの売上総利益はいくらか。

(問7) 先入先出法にもとづいて、次月繰越高はいくらか。

(問1)

【移動平均法】

商品有高帳

リンゴ

(問5)

【先入先出法】

商品有高帳

リンゴ

【解答】

(問1)

【移動平均法】

商品有高帳

リンゴ

×〇年 月 日	摘要	受入			払出			残高		
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
3 1	前月繰越	150	260	39,000				150	260	39,000
3	売上				90	260	23,400	60	260	15,600
10	返品	10	260	2,600				70	260	18,200
15	仕入	70	280	19,600				140	270	37,800
20	売上				100	270	27,000	40	270	10,800
31	次月繰越				40	270	10,800			
		230		61,200	230		61,200			

(問2) $90 \text{個} \times 400 \text{円} + 100 \text{個} \times 400 \text{円} = 76,000 \text{円}$

(問3) $90 \text{個} \times 400 \text{円} + 100 \text{個} \times 400 \text{円} - 10 \text{個} \times 400 \text{円} \text{ (返品分)} = 72,000 \text{円}$

(問4) $72,000 - 47,800 = 24,200 \text{ 円}$

(問5)

【先入先出法】

商品有高帳

リンゴ

×〇年 月 日	摘要	受入			払出			残高		
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
3 1	前月繰越	150	260	39,000				150	260	39,000
3	売上				90	260	23,400	60	260	15,600
10	返品	10	260	2,600				70	260	18,200
15	仕入	70	280	19,600				70	260	18,200
								70	280	19,600
20	売上				70	260	18,200			
					30	280	8,400	40	280	11,200
31	次月繰越				40	280	11,200			
		230		61,200	230		61,200			

(問6) $72,000 - 47,400 = 24,600 \text{ 円}$

(問7) $11,200 \text{ 円}$

第36回 証ひょう問題(第2問対策)

・証ひょうとは、

取引の事実を表す書類のことです。納品書、請求書、領収書、旅費報告書などの種類があります。

(問題)

次の証ひょうに基づいて仕訳をせよ。

- (1) 商品を仕入れ、品物と共に次の納品書を受け取り、代金は後日支払うこととした。
税抜き方式で仕訳をする。

納品書			
(株)力ゼカゼ商事 御中		仙台食糧(株)	
	数量	単価	金額
日本リンゴ(1ダース)	20	3,500	¥ 70,000
富士リンゴ(1ダース)	20	12,500	¥ 250,000
青森りんご(1ダース)	15	4,500	¥ 67,500
		消費税	¥ 38,750
		合計	¥ 426,250

(2) 事務作業に使用する物品を注文し、品物と共に領収書を受け取った。なお、代金は既に支払済みであり、仮払金勘定で処理してある。

領収書

(株)カゼカゼ商事 御中

	数量	単価	金額
FF 社デスクトップパソコン	5	110,000	¥ 550,000
配送料	1	5,000	¥ 5,000
セッティング費用	5	10,000	¥ 50,000
		合計	¥ 605,000

上記の金額を領収しました。

三重文具店(株)



(3) 商品を売り上げ、品物と共に次の納品書兼請求書の原本を発送し、代金の全額を掛代金として処理した。また、送料¥2,000を現金で支払った。

納品書兼請求書(控)

(株)カゼ商事 御中

鹿児島青果(株)

	数量	単価	金額
長野りんご	5	2,000	¥ 10,000
デカデカリンゴ	5	3,000	¥ 15,000
ヒメリんご	5	4,000	¥ 20,000
送料			¥2,000
		合計	¥ 47,000

202×年〇月〇日までに合計額を下記へお振込みください。

日商銀行リンリン支店 普通預金 345689 カゴシマセイカ

(4) 横浜開発(株)に商品￥1,100,000(うち消費税￥100,000)を売り渡し、代金として以下のとおり受け取った。税抜き方式で仕訳せよ。

支払地

日商銀行大阪支店

小切手

￥600,000※

上記の金額をこの小切手と引き替えに持参人へお支払いください。

振出日 令和〇年△月

横浜開発(株)

振出地 埼玉県さいたま市 振出人 三角 太郎兵衛

印

京都商事(株) 殿

小切手

￥500,000※

上記の金額をこの小切手と引き替えに持参人へお支払いください。

振出日 令和〇年△月

振出地 横浜市風車町 90

振出人 縦浜商事(株) 代表取締役 飯田 二郎助

印

(5) 出張から戻った従業員から次の領収書および報告書が提出されるとともに、かねて概算払いしていた¥15,000との差額を現金で受け取った。なお、1回¥3,000以下の電車賃は従業員からの領収書の提出は不要としている。

旅費交通費等報告書

20××年×月×日
加勢 太郎

移動先	手段	金額
名古屋駅	電車	¥ 1,020
AB 商店	タクシー	¥ 3,100
愛知万博ホテル	宿泊	¥ 9,000
帰社	電車	¥ 1,020
		合計 ¥ 14,140

領収書

タクシー運賃
3,100 円

上記の通り領収しました。
マイド交通(株)

領 収 書

宿 泊 料 1 名
¥ 9,000—

愛知万博ホテル

(6) 以下の納付書に基づき、当社の普通預金口座から法人税を振り込んだ。

領 収 証 書	
科目	
法人税	
本 税	600,000
○○税	
▽▽税	
合計額	¥600,000

中間申告 確定申告

住 所	広島県広島市広井▽-▽
氏 名	ミツバチ商会

出納印
×7,11,10
熊本銀行

(7) (6)の翌期(5月30日)となり、以下の納付書が届いたので、当社の普通預金口座から法人税を振り込んだ。

領 収 証 書	
科目	
法人税	
本 税	700,000
○○税	
▽▽税	
合計額	¥700,000

中間申告 確定申告

住 所	広島県広島市広井▽-▽
氏 名	ミツバチ商会

出納印
×7,5,30
熊本銀行

(8) 次の当座勘定照合表に基づいて各取引日における仕訳をしなさい。株式会社橋本食品と大下薬品はいずれも商品の取引先であり、取引は全て掛けで行っている。仕訳が不要の場合は「仕訳なし」と記入すること。

当座勘定照合表

日 付	内 容	出 金 額	入 金 額	残 高
10.20	ATM入金		40,000	
10.22	振込 カブ) ハシモトショクヒン	200,000		
10.23	振込 オオシタヤクヒン		165,700	
10.25	給与振込	995,000		
10.25	振込手数料	600		
10.26	小切手引き落し(No.140)	150,000		
10.27	電子記録債務引き落とし(No.200)	50,000		
	—			

23日の入金金額は、当社負担の振込手数料¥300が差し引かれた残額である。

25日の給与振り込み額は、所得税の源泉徴収の¥71,000を差し引いた残額である。

【解答】

(1) 仕入 387,500 ／買掛金 426,250

仮払消費税 38,750

(2) 備品 605,000 ／仮払金 605,000

収入印紙を貼った (=印紙代を払った) のは相手方 (三重文具店) です。

(3) 売掛金 47,000／売上 45,000

現金 2,000

(4) 現金 1,100,000 ／売 上 1,000,000

仮受消費税 100,000

(5) 旅費交通費 14,140 ／仮払金 15,000

現金 860

(6) 仮払法人税等 600,000 ／普通預金 600,000

(7) 未払法人税等 700,000 ／普通預金 700,000

(6) と (7) の間の決算において、

法人税等 1,300,000 ／ 仮払法人税等 600,000

未払法人税等 700,000

という仕訳が行われていると感がられます。

(8)

10月

20日 当座預金 40,000／現金 40,000

22日 買掛金 200,000／当座預金 200,000

23日 当座預金 165,700／売掛金 166,000

支払手数料 300

25日 給料 1,066,000／当座預金 995,600

支払手数料 600 所得税預り金 71,000

26日 仕訳なし

小切手を振り出した際に既に当座預金を減少させる仕訳をしているので、26日の仕訳は不要です。

27日 電子記録債務 50,000／当座預金 50,000

第37回 決算整理・精算表(第3問対策)

日商簿記3級の試験では、第3問で「決算整理」の問題が（よく）出題されます。第3問は第2問に比べて出題パターンが決まっているので得点源になりやすいです。まずは次の2回分の問題を覚えてしまうくらいになるまで解いて、さらにご自分の問題集も3回くらいやってみましょう。本場の試験では第3問で8割の得点がとれるようになれば、合格にかなり近づきます。

・決算整理とは、

決算整理とは、決算日に行う特有の仕訳のことです。仕訳は日々、取引が行われるたびに行いますが、次のような（主に9つの）取引は決算日に決算整理仕訳として行います。

- ・現金過不足の処理一期中に現金残高と帳簿残高が合わず、「現金過不足」として処理したものは、決算日に正しい費用や収益に振り替えます。原因が不明の場合は「雑損」「雑益」として処理し、「現金過不足」勘定は決算ですべて削除されます。
- ・当座借越の振替一決算日において当座預金残高が貸方残高（当座預金残高がマイナス）であるときは、貸方の当座預金を「当座借越」勘定（負債）に振り替えます。
- ・貯蔵品の振替郵便切手や収入印紙が決算日に残っている場合は、「通信費」や「租税公課」として仕訳していた費用の勘定を「貯蔵品」（資産）に振り替えます。
- ・貸倒引当金の設定一決算日における売上債権（売掛金、電子記録債権）については、貸倒額（経験則上、回収できないと見込まれる金額）を見積もり、貸倒引当金として設定します。
- ・固定資産の減価償却一決算において有形固定資産（建物、備品など）は減価償却を行います。
- ・消費税の処理一決算日に、「仮払消費税」と「仮受消費税」を相殺し、差額を「未払消費税」とします。
- ・前払費用、前受収益、未払費用、未収収益への振替一翌期に属する費用や収益を「前払」「前受」として処理します。また、当期に属する費用や収益でまだ支払や受取りが行われていないものを「未払」「未収」として処理します。
- ・売上原価の算定一期首商品棚卸高を売上原価（仕入）に加え、期末商品棚卸高を繰越商品から売上原価（仕入）から減じることで、「仕入」勘定の欄で売上原価を算定します。（「仕入／繰商・繰商／仕入」の仕訳です。）
- ・法人税等の計上一決算日において、法人税等（=法人税、住民税及び事業税）を計上し、併せて「未払法人税」（負債）を計上します。その際、中間期における「仮払法人税等」（費用）が計上されている場合は「仮払法人税等」を消去し、差額を「未払法人税等」として処理します。

(問題)

次の資料に基づいて、精算表を完成させなさい。なお、決算日は3月31日である。

決算整理事項等

- 先日発生した現金過不足について調査をしたところ、¥1,500については水道光熱費の記帳漏れであることが判明したが、残額については不明であったため適切に処理する。
- 仮受金は全額が売掛金の回収であることが判明した。
- 建物及び備品について次のとおり定額法で減価償却を行う。
建物：残存価額はゼロ、耐用年数20年
備品：残存価額ゼロ、耐用年数 7年
- 売掛金の期末残高に対して1%の貸倒引当金を差額補充法により設定する。
- 期末商品棚卸高は¥246,000である。売上原価は「仕入」の行で計算する。
- 通信費のうち¥4,000は未使用の切手代であった。
- 保険料は当期の10月1日に向こう1年分を一括して支払ったものである。未経過分は月割で処理する。
- 受取手数料は全額当期の12月1日に向こう1年分の手数料を受け取ったものであるため、前受分を月割りで処理する。
- 当期の法人税等¥270,000を計上する。なお、当期は中間納付はしていない。

決算整理前残高試算表

借方	勘定科目	貸方
237,000	現金	
2,000	現金過不足	
1,138,000	普通預金	
570,000	売掛金	
199,000	繰越商品	
1,800,000	建物	
980,000	備品	
2,100,000	土地	
	買掛金	817,000
	仮受金	70,000
	貸倒引当金	4,000
	建物原価償却累計額	270,000
	備品減価償却累計額	350,000
	資本金	4,000,000
	繰越利益剰余	406,000
	売上	4,120,000
	受取手数料	33,000
2,053,000	仕入	
780,000	給料	
156,000	水道光熱費	
30,000	保険料	
25,000	通信費	
10,070,000		10,070,000

精 算 表

【解答】

精 算 表

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	237,000						237,000	
現金過不足	2,000			2,000			0	
普通預金	1,138,000						1,138,000	
売掛金	570,000			70,000			500,000	
繰越商品	199,000		246,000	199,000			246,000	
建物	1,800,000						1,800,000	
備品	980,000						980,000	
土地	2,100,000						2,100,000	
買掛金		817,000						817,000
仮受金		70,000	70,000					0
貸倒引当金		4,000		1,000				5,000
建物原価償却累計額		270,000		90,000				360,000
備品減価償却累計額		350,000		140,000				490,000
資本金		4,000,000						4,000,000
繰越利益剰余金		406,000						1,056,000
売上		4,120,000				4,120,000		
受取手数料		33,000	22,000			11,000		
仕入	2,053,000		199,000	246,000	2,006,000			
給料	780,000				780,000			
水道光熱費	156,000		1,500		157,500			
保険料	30,000			15,000	15,000			
通信費	25,000			4,000	21,000			
	10,070,000	10,070,000						
(貯蔵) 品			4,000				4,000	
(前払)保険料			15,000				15,000	
(前受)手数料				22,000				22,000
(未払)法人税等				270,000				270,000
雑 (損)			500		500			
貸倒引当金(繰入)			1,000		1,000			
減価償却費			230,000		230,000			
法人税等			270,000		270,000			
当期純 (利益)					650,000			
			1,059,000	1,059,000	4,131,000	4,131,000	7,020,000	7,020,000

第38回 決算整理・財務諸表(第3問対策)

(問題)

次の決算整理前残高試算表と決算整理事項等にもとづいて、答案用紙の貸借対照表と損益計算書を完成させなさい。会計期間は×1年4月1日から×2年3月31日までである。

決算整理事項等

- 現金の実際有高が¥200不足していたが、原因不明のため雑損として処理する。
- 仮受金は、全額得意先に対する売掛金の回収額であることが判明した。
- 電子記録債権と売掛金の期末残高に対し、2%の貸倒引当金を設定する。差額補充法による。
- 期末商品棚卸高は¥19,000であった。
- 建物および備品について定額法で減価償却を行う。

建物：残存価額ゼロ、耐用年数30年

備品：残存価額ゼロ、耐用年数5年

- 支払家賃¥13,200は11か月分で、3月分が未払となっている。
- 保険料のうち¥600は、×1年10月1日に向こう1年分を支払ったものである。
- 借入金のうち¥20,000は、×2年2月1日に期間1年、利率年6%で借り入れたもので、利息は返済期日に元本とともに支払う契約である。利息は月割による。
- 手数料の未収分が¥200ある。

決算整理前残高試算表

×2年3月31日

借方	勘定科目	貸方
17,000	現 金	
52,100	当 座 預 金	
42,000	売 掛 金	
35,000	電 子 記 録 債 権	
18,500	繰 越 商 品	
90,000	建 物	
21,000	備 品	
	買 掛 金	30,500
	電 子 記 録 債 務	17,400
	仮 受 金	2,000
	借 入 金	40,000
	貸 倒 引 当 金	700
	建物原価償却累	36,000
	備品減価償却累	4,200
	資 本 金	100,000
	繰越利益剰余金	20,000
	売 上	148,000
	受 取 手 数 料	1,200
78,500	仕 入	
27,400	給 料	
13,200	支 払 家 賃	
1,400	保 険 料	
1,600	消 耗 品 費	
2,300	支 払 利 息	
400,000		400,000

貸借対照表

×2年3月31日

(円)

現 金	()	買 掛 金	()
当 座 預 金	()	電子記録債務	()
売 掛 金 ()		借 入 金	()
貸倒引当金 ()	()	未 払 費 用	()
電子記録債権 ()		資 本 金	()
貸倒引当金 ()	()	繰越利益剰余金	()
商 品	()		
前 払 費 用	()		
未 収 収 益	()		
建 物 ()			
減価償却累計額 ()	()		
備 品 ()			
減価償却累計額 ()	()		
	()		()
	<u>()</u>		<u>()</u>

損益計算書

×1年4月1日から ×2年3月31日まで

(円)

売 上 原 価	()	売 上 高	()
給 料	()	受 取 手 数 料	()
支 払 家 貸	()		
保 険 料	()		
消 耗 品 費	()		
貸倒引当金繰入	()		
減価償却費	()		
支 払 利 息	()		
雜 損	()		
当期純()	()		
	()		()
	<u>()</u>		<u>()</u>

(解答)

貸借対照表

		×2年3月31日	(円)
現 金	16,800	買 掛 金	30,500
当 座 預 金	52,100	電子記録債務	17,400
売 掛 金	40,000	借 入 金	40,000
貸倒引当金	△ 800	未 払 費 用	1,400
電子記録債権	35,000	資 本 金	100,000
貸倒引当金	△ 700	繰越利益剰余金	36,200
商 品	19,000		
前 払 費 用	300		
未 収 収 益	200		
建 物	90,000		
減価償却累計額	△ 39,000		
備 品	21,000		
減価償却累計額	△ 8,400		
	225,500		225,500

損益計算書

		×1年4月1日から ×2年3月31日まで	(円)
売 上 原 価	78,000	売 上 高	148,000
給 料	27,400	受 取 手 数 料	1,400
支 払 家 賃	14,400		
保 険 料	1,100		
消 耗 品 費	1,600		
貸倒引当金繰入	800		
減価償却費	7,200		
支 払 利 息	2,500		
雜 損	200		
当期純(利益)	16,200		
	149,400		149,400

※当期純利益と繰越利益剰余金の計算方法

・当期純利益

= 収益の全額 (売上高と受取手数料)

− 費用の全額 (売上原価から雜損までの合計額) = 16,200円

・繰越利益剰余金 = 前期からの繰越額20,000円 + 当期純利益16,200円 = 36,200円